

2023 年度 授業計画 (シラバス)

教 育 内 容	科学的思考の基盤	対象学年	1 年	授業時間数	30時間(15回)
科 目 名	ロジカルシンキング	学 期	後期	授業単位数	1 単位
担 当 教 員	土持 貴志	実務経験と その関連資格	九州大学 研究員 (人文基礎専攻)		
《科目全体のねらい・授業目標》 論理的に考え、推論し、書く能力は学問の基礎である。そのため、ロジカルシンキング等の筋道の通った思考力を養成することにより、論理的に物事をとらえ表現することができるようになることを目的とする。 ①コミュニケーション力の向上：相手の意見を理解する力野自分の意見を伝える力を養うことができる。 ②分析力の向上：適切に問題を分類し因果関係や相互関係を分析し対処方法を導くことを学ぶ。 ③問題解決力の向上：問題の本質となる原因を整理し解決する手法を理解することができる。					
《事前学習内容》 指定した教科書を事前に読んでおくこと。「一貫していて筋道が通っている考え方」をもって課題を思考する。					
《D P との関連》 DP.1 看護師としての責務を自覚し、人々の生命・尊厳・権利を尊重した倫理的な判断に基づいた看護を実践することができる。 DP.6 探究心と挑戦する姿勢をもち主体的に学び続け、看護の質の向上を図ることができる。					
授業の 方法	内 容				
第1回	論理の基本について：どのような学問か、何を学ぶのか。				
第2回	レポートの特徴（レポートと感想文の違いや意義）				
第3回	レポートの構成法や各パラグラフにおいて書くべき内容				
第4回	論理的に書く場合の言葉の使い方				
第5回	論理的に書く場合の文章のねじれの注意点				
第6回	論理的文章を書く際の接続表現について				
第7回	論理的に書くことをトレーニングする				
第8回	論理的に書くことをトレーニングする				
第9回	ロジカルツリーの作り方、利用法				
第10回	理由をつけて意見を述べる（理由を付すことの重要性）				
第11回	誤謬推論に関する説明				
第12回	帰納法と演繹法の違い				
第13回	逆・裏・対偶について				
第14回	三段論法について				
第15回	講義全体を振り返り改めて論理の意義を考える				
《成績評価の方法と基準》 終講試験 100点、出席状況、受講態度					
《受講上の注意》 一人ひとりが学習目標を達成できるようになってください。					
《使用教材（教科書）及び参考図書》 松葉祥 「ナースのための実践論文講座」 人文書院 ロジカルシンキング 論理的な思考と構成のスキル 東洋経済新報社					

2023 年度 授業計画 (シラバス)

教育内容	科学的思考の基盤	対象学年	1年	授業時間数	30時間(15回)
科目名	情報科学(看護統計学)	学期	前期	授業単位数	1単位
担当教員	福島 武	実務経験とその関連資格	大牟田高校 教諭 高等学校教諭一種免許 情報		
《科目全体のねらい・授業目標》 コンピュータの操作の習熟を図り、コンピュータネットワーク環境の適切な利用ができる。 また、情報処理スキルの向上や情報倫理、情報リテラシーなどを理解できる。 ①医療の情報化の基本的な概念を理解することができる。 ②文書を作成する際にソフトや文書の特性を考慮して創意工夫を行う。 ③簡単な統計計算とそれに関わる関数を使って、グラフなどを作成することができる。					
《事前学習内容》 現在のネット社会のあり方を自らの視点で考える。					
《DPとの関連》 DP.1 看護師としての責務を自覚し、人々の生命・尊厳・権利を尊重した倫理的な判断に基づいた看護を 実践することができる。 DP.6 探究心と挑戦する姿勢をもち主体的に学び続け、看護の質の向上を図ることができる。					
授業の方法	内 容				
第1回	情報化による医療の変化(情報の定義と特徴) 医療とコンピュータ・情報と情報処理 コンピュータの概要・しくみ・ネットワーク				
第2回	ICT講義の意義を理解し、windows操作とタイピングの基礎を身につける。 コンピューターリテラシーとセキュリティ				
第3回	インターネットの情報を理解し、かつ安全にルールに従った インターネットの利用ができる。				
第4回	Word、Excelの基本を学び必要な操作ができる				
第5回	表計算ソフトウェアの操作・グラフの作成				
第6回	表計算ソフトウェアの操作・グラフの作成				
第7回	統計処理の概要(確率・誤差・データの種類)				
第8回	記述統計(平均値・中央値・分散・標準偏差)				
第9回	記述統計(正規分布)				
第10回	Excelによる基本統計解析				
第11回	SPSSによる基本統計解析				
第12回	仮説検定				
第13回	仮説検定				
第14回	仮説検定、まとめ				
第15回	警察の講義(ネット犯罪について)				
《成績評価の方法と基準》 終講試験 100点、出席状況、受講態度					
《受講上の注意》 自宅にインターネットにつながったPCがあれば、自習ができます。					
《使用教材(教科書)及び参考図書》 別巻 看護情報学 医学書院 基礎分野 統計学 医学書院 医療・看護系のための情報リテラシー					

## 2023 年度 授業計画 (シラバス)

教育内容	人間と生活・社会の理解	対象学年	1年	授業時間数	30時間(15回)
科目名	医療倫理	学期	後期	授業単位数	1単位
担当教員	藤丸 由美子	実務経験と その関連資格	白川病院 看護部長		
《科目全体のねらい・授業目標》					
人間の生命を広い視点でとらえ、医療における責任と倫理的態度を身につける。 人間観、人生観、死生観についての考え方を豊かにし、生命に携わる援助者としての在り方を考察する。 ①看護の現場にある倫理的課題に「気づく」ことができる。 ②自分の意見に根拠をもち発言する訓練と分析能力を身につける。					
《事前学習内容》					
ボランティア・病気体験とその生き様、臨床倫理的問題から、人を支えることや社会のあり方を考える。					
《DPとの関連》					
DP.1 看護師としての責務を自覚し、人々の生命・尊厳・権利を尊重した倫理的な判断に基づいた看護を 実践することができる。 DP.6 探究心と挑戦する姿勢をもち主体的に学び続け、看護の質の向上を図ることができる。					
授業の 方法	内 容				
第1回	看護倫理をまなぶために 生命倫理ー倫理学の基本的な考え方ー				
第2回	ナラティブとはー倫理問題ー				
第3回	生命倫理とはなにか				
第4回	生命倫理の理論-生命倫理の4原則ー				
第5回	インフォームドコンセントとはー看護者の責務ー				
第6回	性と生殖の生命倫理				
第7回	死の生命倫理				
第8回	先端医療と制度をめぐる生命倫理				
第9回	看護倫理ー専門職の倫理ー				
第10回	倫理的問題へのアプローチ				
第11回	症例検討ディベートー文献検索と資料作成ー				
第12回	症例検討ディベートー文献検索と資料作成ー				
第13回	看護研究の倫理				
第14回	事例分析				
第15回	まとめ				
《成績評価の方法と基準》					
終講試験100点 出席状況 受講態度					
《受講上の注意》					
一人ひとりが学習目標を達成できるようになってください。					
《使用教材(教科書)及び参考図書》					
系統看護学講座 別巻 看護倫理 医学書院					

2023 年度 授業計画 (シラバス)

教育内容	人間と生活・社会の理解	対象学年	1年	授業時間数	30時間(15回)
科目名	人間関係論	学期	前期	授業単位数	1単位
担当教員	森田 智	実務経験と その関連資格	大牟田保養院 臨床心理士		
《科目全体のねらい・授業目標》 自分自身を客観的に観察し、心理テクニックを用いて人間関係をスムーズに構築するスキルを身につける。 ①人格形成のためのパラダイムシフトの利用ができる。 ②患者の価値観やニーズを理解し尊重できる。					
《事前学習内容》 自分の興味のある内容についての書物を講師に質問して、図書館等で調べること。					
《DPとの関連》 DP.1 看護師としての責務を自覚し、人々の生命・尊厳・権利を尊重した倫理的な判断に基づいた看護を 実践することができる。 DP.6 探究心と挑戦する姿勢をもち主体的に学び続け、看護の質の向上を図ることができる。					
授業の 方法	内 容				
第1回	人間関係基礎論 (自己と他者理解)				
第2回	人間の人と接する距離とその認識について修得				
第3回	態度と対人行動、集団と個人				
第4回	人間関係をつくる理論と技法				
第5回	カウンセリングと心理療法				
第6回	コーチングとアサーティブコミュニケーション				
第7回	保健医療における人間関係				
第8回	医療チームと患者を支える人間関係				
第9回	家族を含めた人間関係				
第10回	地域をつくる人間関係				
第11回	人間の愛についてその種類を学習				
第12回	DVとストーカーの心理分析				
第13回	人間の死についてその死後の概念				
第14回	事例から考察する				
第15回	まとめ				
《成績評価の方法と基準》 終講試験 100点、出席状況、受講態度					
《受講上の注意》 一人ひとりが学習目標を達成できるようになってください。					
《使用教材 (教科書) 及び参考図書》 系統看護学講座 基礎分野 人間関係論 医学書院 猿にそだてられた子 ゲゼル. A 著					

2023 年度 授業計画 (シラバス)

教 育 内 容	人間と生活・社会の理解	対象学年	1 年	授業時間数	30時間(15回)
科 目 名	社会学	学 期	後期	授業単位数	1 単位
担 当 教 員	土持 貴志	実務経験と その関連資格	九州大学 研究員 (人文基礎専攻)		
《科目全体のねらい・授業目標》 社会でおこる事象に看護の視点で理解・洞察し、健康や看護、社会のかかわりについて理解することができる。 ①社会の中で起こる様々な事象の成り立ちやあり方を学ぶ。 ②社会を多角的にとらえ事象の成り立ちやあり方を社会調査のデータから説明できる。 ③社会における看護職の役割について説明できる。					
《事前学習内容》 社会の政治・経済等の統計から社会を捉えるデータを読み解く。					
《DPとの関連》 DP.1 看護師としての責務を自覚し、人々の生命・尊厳・権利を尊重した倫理的な判断に基づいた看護を 実践することができる。 DP.6 探究心と挑戦する姿勢をもち主体的に学び続け、看護の質の向上を図ることができる。					
授業の 方法	内 容				
第1回 第2回	社会学とは 社会学の基礎 (グローバリゼーションの意味を学ぶ) 社会学的視点とモデル 保健医療と社会学、社会調査の基本と技法				
第3回 第4回	健康・病気と社会 健康・病気・ストレスの社会学的モデル 健康格差、仕事と健康の関係について				
第5回 第6回 第7回	保健医療における行為・関係・組織・制度 保健医療の利用者である保健医療の専門職とは 利用者と提供者をとりまく社会環境 ジェンダー・家族・地域社会について 保健医療制度について				
第8回 第9回	保健医療の現代的課題 保健医療の現代的変化の位相 具体的ケアと医療を取り上げる				
第10回 第11回 第12回	現代社会における保健医療の主要な課題、その課題を解決する糸口 保健医療に関する課題についてGW発表				
第13回	ケアと医療				
第14回	ケア論 (現代のケア論の論点)				
第15回	まとめ				
《成績評価の方法と基準》 終講試験 100点 (課題評価を含む)、出席状況、受講態度					
《受講上の注意》 一人ひとりが学習目標を達成できるようになってください。					
《使用教材 (教科書) 及び参考図書》 系統看護学講座 基礎分野 社会学 医学書院					

2023 年度 授業計画 (シラバス)

教育内容	人間と生活・社会の理解	対象学年	1年	授業時間数	30時間(15回)
科目名	健康論	学期	前期	授業単位数	1単位
担当教員	上田 智之 武田 智佳子 山田 聖子 山田 拓治 富山 博史	実務経験と その関連資格	九州看護福祉大学看護福祉学部看護学科 精神看護学 博士(医学)、准教授 他 緑保育園 施設長 茶道裏千家 教授 AEAJアロマセラピスト他 健康運動療法士 コーヒー		
《科目全体のねらい・授業目標》 学生自身の健康向上を目指すと同時に、講義を通して知見を深め、心身共に健康を求めていくことを目的とする。 ①自分自身の健康について考えることができる。 ②健康促進する要素について学習できる。 ③健康の意義や生活との関連について理解できる。					
《事前学習内容》 学生自身の健康管理の方法や自主的な運動や心身の健康に心がけた生活の実践ができる。					
《DPとの関連》 DP.1 看護師としての責務を自覚し、人々の生命・尊厳・権利を尊重した倫理的な判断に基づいた看護を 実践することができる。 DP.6 探究心と挑戦する姿勢をもち主体的に学び続け、看護の質の向上を図ることができる。					
授業の 方法	内 容				
第1回	健康の概念・健康観について				
第2回	健康—珈琲と健康—				
第3回	健康—珈琲と健康—				
第4回	健康—こころの健康—				
第5回	健康—元気回復プラン—				
第6回	健康—元気回復プラン—				
第7回	健康—元気回復プラン—				
第8回	健康づくり—お茶と健康—				
第9回	健康づくり—お茶と健康—				
第10回	健康づくり—アロマによる健康—				
第11回	健康づくり—アロマによる健康—				
第12回	健康づくり—アロマによる健康—				
第13回	健康づくり—アロマによる健康—				
第14回	健康づくり—身体運動について—				
第15回	健康づくり—骨格筋について—				
《成績評価の方法と基準》 授業の終わりにその授業の理解度を問うレポート課題評価を含む。					
《受験上の注意》 一人ひとりが学習目標を達成できるようになってください。					
《使用教材(教科書)及び参考図書》					

## 2023 年度 授業計画 (シラバス)

教育内容	人体の構造と機能	対象学年	1年	授業時間数	30時間(15回)
科目名	解剖生理学 I	学期	前期	授業単位数	1単位
担当教員	1) 行平 崇 2) 上瀧 健二 3) 吉村 和代	実務経験と その関連資格	1) 帝京大学福岡医療技術学部 修士(保健学) 講師 理学療法士 2) 帝京大学福岡医療技術学部理学療法学科 講師 理学療法士(医学博士) 3) 帝京大学福岡医療技術学部理学療法学科 助教		
《科目全体のねらい・授業目標》 人体の構造と機能を系統的に理解し、看護に必要な解剖生理学の知識を習得し、またそれらの知識が生命・生活になぜ必要なのかについて理解する。					
《事前学習内容》 教科書に沿って、人体の構造と機能を正しく予習を進める。					
《DPとの関連》 DP.4 健康段階を理解し健康状態やその変化を臨床判断し、科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。					
授業の方法	内 容				
第1回	総論、運動方向、筋				
第2回	ニューロン、シナプス				
第3回	イオンチャンネル、受容体				
第4回	心臓				
第5回	血液循環				
第6回	血液成分				
第7回	ホルモン① 脳下垂体～甲状腺				
第8回	ホルモン② 甲状腺～				
第9回	中間試験				
第10回	自律神経				
第11回	消化と吸収① 口腔				
第12回	消化と吸収② 嚥下				
第13回	呼吸				
第14回	腎臓				
第15回	酸-塩基平衡				
《成績評価の方法と基準》 終講試験 100点、出席状況、受講態度					
《受講上の注意》 一人ひとりが学習目標を達成できるようになってください。					
《使用教材(教科書)及び参考図書》 解剖生理学 人体の構造と機能 [1] 医学書院 解いてわかる解剖生理学問題集 元・常葉大学教授 竹内修二著					

2023 年度 授業計画 (シラバス)

教 育 内 容	人体の構造と機能	対象学年	1 年	授業時間数	30時間(15回)
科 目 名	解剖生理学Ⅱ	学 期	後期	授業単位数	1 単位
担 当 教 員	上田 智之 岩屋 弓子	実務経験と その関連資格	看護師・保健師		
《科目全体のねらい・授業目標》 解剖生理学Ⅰを基盤とし、人体の構造・機能について日常生活行動の視点から理解する ①生きていることを支える日常生活行動を知る。 ②各日常生活行動の最も一般的な型について、からだの仕組みを説明できる。					
《事前学習内容》 実習事前学習 (1年次：解剖生理学 2年次：疾患 3年次：看護)					
《DPとの関連》 DP4. 健康段階を理解し健康状態やその変化を臨床判断し、科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。 DP. 6探求心と挑戦する姿勢をもち主体的に学び続け、看護の質の向上を図ることができる。					
授業の 方法	内 容				
第1回	脳の構造と機能				
第2回	恒常性維持のための物質の流通				
第3回	恒常性維持のやめの調節機構				
第4回	動く				
第5回	食べる				
第6回	息をする				
第7回	トイレに行く				
第8回	話す・聞く				
第9回	眠る				
第10回	お風呂に入る				
第11回	子どもを生む				
第12回	感覚受容の構造と機能・痛みのメカニズム				
第13回	解剖見学				
第14回	解剖見学				
第15回	発表、フィードバック				
《成績評価の方法と基準》 終講試験 100点、出席状況、受講態度					
《受講上の注意》 一人ひとりが学習目標を達成できるようになってください。					
《使用教材(教科書)及び参考図書》 解剖生理学 人体の構造と機能 [1] 医学書院 看護形態機能学 生活行動からみるからだ 菱沼典子 日本看護協会出版会 看護 形態機能学ワークブック NEW 体験して考える からだのいとなみ 日本看護協会出版会					



2023 年度 授業計画 (シラバス)

教 育 内 容	人体の構造と機能	対象学年	1 年	授業時間数	30時間(15回)
科 目 名	解剖生理学Ⅲ	学 期	後期	授業単位数	1 単位
担 当 教 員	木村 涼平 岩屋 弓子	実務経験と その関連資格	看護師・保健師		
《科目全体のねらい・授業目標》 解剖生理学Ⅰを基盤とし、人体の構造・機能について理解したことを説明できる。 解剖プロジェクト:グループの一メンバーとしての役割を果たす。					
《事前学習内容》 教科書に沿って、人体の構造と機能を正しく予習を進める。					
《DPとの関連》 DP4. 健康段階を理解し健康状態やその変化を臨床判断し、科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。 DP6. 探求心と挑戦する姿勢をもち主体的に学び続け、看護の質の向上を図ることができる。					
授業の 方法	内 容				
第1回	解剖学について				
第2回	オリエンテーション 協同学習について、臨地実習 事前学習(解剖生理学)について				
第3回	消化器系の解剖生理学				
第4回	呼吸器系の解剖生理学				
第5回	循環器系の解剖生理学				
第6回	腎泌尿器系の解剖生理学				
第7回	脳神経系の解剖生理学				
第8回	感覚器系の解剖生理学				
第9回	運動器系の解剖生理学				
第10回	運動器系の解剖生理学				
第11回	女性生殖器系の解剖生理				
第12回	協同学習 専門家チーム担当発表 発表に向けてGW				
第13回	発表				
第14回	発表				
第15回	まとめ、小テスト解説				
《成績評価の方法と基準》 終講試験 100点、出席状況、受講態度					
《受講上の注意》 一人ひとりが学習目標を達成できるようになってください。					
《使用教材(教科書)及び参考図書》 解剖生理学 人体の構造と機能 [1] 医学書院 看護形態機能学 生活行動からみるからだ 菱沼典子 日本看護協会出版会					

2023 年度 授業計画 (シラバス)

教育内容	人体の構造と機能	対象学年	1年	授業時間数	30時間 (15回)
科目名	栄養と代謝 (生化学を包括する)	学 期	前期・後期	授業単位数	1単位 (生化学を含む)
担当教員	1)上嶋 稔子 2)小林 正幸	実務経験と その関連資格	1)大牟田天領病院 管理栄養士 2)有明工業高等専門学校 創造工学科 教授		
《科目全体のねらい・授業目標》 人間にとっての栄養の意義、生きるという事、健康との関わりを理解する。 生命を育てていくのに必要な要素を正しく、過不足のない取り方を理解、実践する知識を身につける。 生体構成成分である物質の生体内での作用について学び、人の代謝について理解する。					
《事前学習内容》 健康や栄養状態を考え、保健や医療とつないで考えることができる。 患者のからだを構成している物質の変化を理解できるように予習をすすめる。					
《DPとの関連》 DP.4 健康段階を理解し健康状態やその変化を臨床判断し、科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。					
授業の方法	内 容				
第1回	第1章 人間栄養学と看護、看護と栄養 栄養サポートチーム				
第2回	第2章 栄養素の種類とはたらき 第3章 食物の消化と栄養素の吸収・代謝				
第3回	第4章 エネルギー代謝 第5章 食事と食品				
第4回	第6章 栄養ケア・マネジメント 第7章 栄養状態の評価				
第5回	第8章 栄養状態の評価・判定 第9章 臨床栄養				
第6回	第10章 健康づくりと食生活				
第7回	食育について				
第8回	食育について				
第9回	生化学および代謝の基礎 酵素・補酵素 糖質の構造と機能				
第10回	糖質の代謝				
第11回	脂質の構造と機能 脂質の代謝				
第12回	タンパク質の構造と機能 タンパク質代謝				
第13回	ポルフィリン代謝と遺物代謝 遺伝子と核酸				
第14回	核酸の構造と機能および代謝 遺伝子の複製・修復・組み換え				
第15回	転写 翻訳				
《成績評価の方法と基準》 終講試験 100点、生化学・栄養学の平均点をもって評価する。					
《受講上の注意》 一人ひとりが学習目標を達成できるようになってください。					
《使用教材 (教科書) 及び参考図書》 栄養学 人体の構造と機能③ 医学書院 生化学 人体の構造と機能② 医学書院					

2023 年度 授業計画 (シラバス)

教育内容	疾病の成り立ちと回復の促進	対象学年	1年	授業時間数	30時間(15回)
科目名	薬理学	学期	前期	授業単位数	1単位
担当教員	畑瀬 圭佐	実務経験と その関連資格	薬剤師		
《科目全体のねらい・授業目標》 薬物の生体への影響を総合的に理解し臨床で有害な薬理作用を早期に発見し、対応できる知識を習得する。					
《事前学習内容》 教科書に沿って、薬理に関する予習をすすめる。					
《DPとの関連》 DP.4 健康段階を理解し健康状態やその変化を臨床判断し、科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。					
授業の方法	内 容				
第1回	薬理学総論				
第2回	薬理学の基礎知識				
第3回	抗感染症薬				
第4回	抗がん剤				
第5回	免疫治療薬				
第6回	抗アレルギー薬・抗炎症薬				
第7回	末梢での神経活動に作用する薬物				
第8回	中枢神経系に作用する薬物				
第9回	循環器系に作用する薬物				
第10回	呼吸器・消化器・生殖系に作用する薬物				
第11回	物質代謝に作用する薬物、救急の際に使用する薬物、 皮膚科用薬・眼科用薬				
第12回	漢方薬 1～12回のまとめ				
第13回	消毒薬、輸液製剤、輸血剤 看護業務に必要な薬の管理について				
第14回	与薬の技術(経口、経皮、投与、外用薬)				
第15回	特別講義(警察)薬物乱用(覚せい剤について)				
《成績評価の方法と基準》 終講試験 100点、出席状況、受講態度					
《受講上の注意》 一人ひとりが学習目標を達成できるようになってください。					
《使用教材(教科書)及び参考図書》 薬理学 疾病の成り立ちと回復の促進③ 医学書院					

2023 年度 授業計画 (シラバス)

教育内容	疾病の成り立ちと回復の促進	対象学年	1年	授業時間数	16時間(8回)
科目名	病因論 微生物	学期	前期	授業単位数	1単位 (病理学を含む)
担当教員	大隈 光信	実務経験と その関連資格	臨床検査技師		
《科目全体のねらい・授業目標》 患者に起こっている病理的状態の理解に必要な、疾病の成り立ちについての基礎的知識として、病因と病態の特徴を理解する。					
《事前学習内容》 教科書に沿って予習をすすめる。					
《DPとの関連》 DP.4 健康段階を理解し健康状態やその変化を臨床判断し、科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。					
授業の方法	内 容				
第1回	新型コロナウイルス感染症について 微生物と微生物学				
第2回	細菌の性質 細菌の形態と特徴 真菌の性質 真菌の形態と特徴 細菌感染症と真菌感染症				
第3回	原虫の性質 原虫の特徴と基本構造 ウイルスの性質 ウイルスの特徴 原虫感染症とウイルス感染症(1)				
第4回	感染とその防御				
第5回	感染に対する生体防御機能				
第6回	感染源・感染経路からみた感染症 院内感染と細菌の性質				
第7回	感染経路と滅菌・消毒				
第8回	感染症の検査と診断 感染症の治療				
《成績評価の方法と基準》 終講試験 100点、出席状況、受講態度					
《受講上の注意》 一人ひとりが学習目標を達成できるようになってください。					
《使用教材(教科書)及び参考図書》 微生物学 疾病の成り立ちと回復の促進④ 医学書院					

2023 年度 授業計画 (シラバス)

教育内容	疾病の成り立ちと回復の促進	対象学年	1年次	授業時間数	14時間(7回)
科目名	病因論 病理学	学期	前期	授業単位数	1単位 (微生物学を含む)
担当教員	枝光 理	実務経験と その関連資格	医師		
《科目全体のねらい・授業目標》 患者に起こっている病理的状态の理解に必要な、疾病の成り立ちについての基礎的知識として、病因と病態の特徴を理解する。					
《事前学習内容》 教科書に沿って予習を進める。					
《DPとの関連》 DP.4 健康段階を理解し健康状態やその変化を臨床判断し、科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。					
授業の方法	内 容				
第1回	病理学で学ぶこと 看護と病理学				
第2回	細胞・組織の障害と修復 細胞の損傷と適応				
第3回	循環障害、炎症 浮腫 充血とうっ血 出血 虚血と梗塞				
第4回	免疫、アレルギー、感染症				
第5回	代謝障害 糖尿病				
第6回	老死と死 先天異常と遺伝子異常				
第7回	腫瘍 腫瘍の診断と治療				
《成績評価の方法と基準》 終講試験 100点、出席状況、受講態度					
《受講上の注意》 一人ひとりが学習目標を達成できるようになってください。					
《使用教材(教科書)及び参考図書》 病理学 疾病の成り立ちと回復の促進① 医学書院					

2023 年度 授業計画 (シラバス)

教育内容	疾病の成り立ちと回復の促進	対象学年	1年	授業時間数	14時間 (7回)
科目名	疾病各論 I (呼吸器・血液系)	学期	後期	授業単位数	1単位 (内分泌・代謝系他を含む)
担当教員	丸山 正夫	実務経験と その関連資格	医師		
《科目全体のねらい・授業目標》 呼吸器・血液系の疾患に関して病態・検査・治療予後を理解する。					
《事前学習内容》 教科書に沿って、予習をすすめる。					
《DPとの関連》 DP.4 健康段階を理解し健康状態やその変化を臨床判断し、科学的根拠に基づいた看護を 実践することができる。					
授業の方法	内 容				
第1回	呼吸器の構造と機能 症状とその病態生理 自覚症状 他覚症状				
第2回	検査と治療・処置 診察と診断の流れ 検査				
第3回	治療・処置 吸入療法 酸素療法 人工呼吸療法 呼吸リハビリテーション 気道確保				
第4回	疾患の理解				
第5回	血液の生理と造血のしくみ				
第6回	検査・診断と症候・病態生理 血液系 疾患の理解と治療				
第7回	血液系 疾患の理解と治療				
《成績評価の方法と基準》 終講試験 100点、出席状況、受講態度					
《受講上の注意》 一人ひとりが学習目標を達成できるようになってください。					
《使用教材 (教科書) 及び参考図書》 呼吸器 成人看護学② 医学書院 血液・造血器 成人看護学④ 医学書院					

2023 年度 授業計画 (シラバス)

教育内容	疾病の成り立ちと回復の促進	対象学年	1年	授業時間数	16時間 (8回)
科目名	疾病各論 I (内分泌・代謝系他)	学期	後期	授業単位数	1単位(呼吸・血液系を含む)
担当教員	名取 省一	実務経験と その関連資格	医師		
《科目全体のねらい・授業目標》 内分泌・代謝系の疾患に関して病態・検査・治療・予後を理解する。					
《事前学習内容》 教科書に沿って、予習をすすめる。					
《DPとの関連》 DP.4 健康段階を理解し健康状態やその変化を臨床判断し、科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。					
授業の方法	内 容				
第1回	内分泌各論				
第2回	内分泌・代謝器官の構造と機能 内分泌器官とホルモンの機能 代謝の概要と機能				
第3回	症状とその病態生理				
第4回	検査 内分泌疾患の検査 代謝疾患の検査				
第5回	疾患の理解 内分泌疾患 代謝疾患				
第6回	アレルギー 免疫のしくみとアレルギー				
第7回	アレルギー 膠原病 診断・検査と治療				
第8回	アレルギー 膠原病 症状と疾患の理解				
《成績評価の方法と基準》 終講試験 100点、出席状況、受講態度					
《受講上の注意》 一人ひとりが学習目標を達成できるようになってください。					
《使用教材(教科書)及び参考図書》 内分泌・代謝 成人看護学⑥ 医学書院					

2023 年度 授業計画 (シラバス)

教 育 内 容	疾病の成り立ちと回復の促進	対象学年	1 年	授業時間数	20時間 (10回)
科 目 名	疾病各論Ⅱ (消化器系)	学 期	後期	授業単位数	1 単位(腎・泌尿器系を含む)
担 当 教 員	坂田 研二 福森 一太	実務経験と その関連資格	医師		
《科目全体のねらい・授業目標》 消化器系の疾患に関して病態・治療・検査予後を理解する。					
《事前学習内容》 教科書に沿って、予習をすすめる。					
《D P との関連》 DP. 4 健康段階を理解し健康状態やその変化を臨床判断し、科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。					
授業の 方法	内 容				
第 1 回	消化器の構造と機能 食道 胃 十二指腸 小腸 大腸				
第 2 回	消化器の構造と機能 (肝・胆・膵) 直腸 肛門 肝臓 胆道系 膵臓				
第 3 回	症状とその病態生理				
第 4 回	検査と治療				
第 5 回	診療と診断の流れ				
第 6 回	治療と処置				
第 7 回	疾患の理解 食道疾患 胃十二指腸疾患				
第 8 回	腸、腹膜疾患				
第 9 回	肝臓・胆嚢の疾患				
第10回	胆・膵疾患、腹部外傷 急性腹症				
《成績評価の方法と基準》 終講試験 100点、出席状況、受講態度					
《受講上の注意》 一人ひとりが学習目標を達成できるようになってください。					
《使用教材 (教科書) 及び参考図書》 消化器 成人看護学⑤ 医学書院					



2023 年度 授業計画 (シラバス)

教育内容	疾病の成り立ちと回復の促進	対象学年	1年	授業時間数	10時間 (5回)
科目名	疾病各論Ⅱ (腎・泌尿器系)	学期	後期	授業単位数	1単位 (消化器系を含む)
担当教員	安楽 美咲	実務経験と その関連資格	医師		
《科目全体のねらい・授業目標》					
腎・泌尿器系の疾患に関して病態・検査・治療予後を理解する					
《事前学習内容》					
教科書に沿って予習をすすめる					
《DPとの関連》					
DP4. 健康段階を理解し健康状態やその変化を臨床判断し、科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。					
授業の方法	内 容				
第1回	腎泌尿器の構造と機能 尿管の構造と機能 膀胱の構造と機能 尿道の構造と機能 男性生殖器の構造と機能				
第2回	症状と病態生理 尿の異常 排尿に関連した症状 浮腫 脱水 循環器系の異常 血液の異常 尿毒症 疼痛 腫脹・腫瘤				
第3回	検査と治療 診察 検査 治療と処置 透析療法				
第4回	疾患の理解				
第5回	まとめ				
《成績評価の方法と基準》					
終講試験 100点、出席状況、受講態度					
《受講上の注意》					
一人ひとりが学習目標を達成できるようになってください。					
《使用教材 (教科書) 及び参考図書》					
腎・泌尿器 成人看護学⑧ 医学書院					

2023 年度 授業計画 (シラバス)

教育内容	基礎看護学	対象学年	1年	授業時間数	30時間(15回)
科目名	看護学概論 (国際看護、看護管理含む)	学期	前期	授業単位数	1単位
担当教員	1) 小塩 美枝子 2) 徳永 すま子 3) 雪野 美和	実務経験と その関連資格	1) 看護師として病院勤務 2) アルデンハイムヨコクラ 看護師長 (エジプトカイロ大学、パキスタン共和国イスラマバード小児病院勤務経験あり) 3) 看護師長として病院勤務		
《科目全体のねらい・到達目標》					
看護とは何か、看護師とはどのような職業かを学ぶ。 看護の機能と役割の重要性を認識し、基本となる姿勢や考え方を学ぶ。 国際社会における保健医療福祉の実績を知り、国際協力について考えることができる。 看護管理についての基礎的知識を修得できる。					
《事前学習内容》					
「看護覚え書」を読み、ナイチンゲールの説いた「人間」「健康」「看護」とは何かを事前学習し講義に臨むこと。					
《DPとの関連》					
DP.1 看護師としての責務を自覚し、人々の生命・尊厳・権利を尊重した倫理的な判断に基づいた看護を実践することができる。 DP.5 保健・医療・福祉システムにおける看護の役割を理解し、多職種と連携・協働し多様な場で生活する人々へ看護を提供することができる。 DP.6 探究心と挑戦する姿勢をもち主体的に学び続け、看護の質の向上を図ることができる。					
授業の方法	内 容				方法
第1回	看護概論 1. 看護の基本的概念 (人間・環境・健康・看護)	看護サービス提供の場			講義
第2回	2. 看護の対象の理解	人間の「こころ」「からだ」「暮らし」			講義
第3回	3. 国民の健康状態と生活	健康の捉え方	健康関連行動	講義	
第4回	4. 看護の役割と機能	看護理論の活用 (セルフケア理論を例に)			講義
第5回	各理論家の看護ケア、ケアリングの定義	(ナイチンゲール他)			講義
第6回	5. 看護の提供者	看護職の資格・養成制度	養成制度の課題	講義	
第7回	6. 看護における倫理				講義
第8回	国際看護				講義
第9回	1) 看護の国際協力	2) 国際看護の展開の実際	3) 在日外国人への看護	講義	
第10回	看護管理 マネジメントに必要な知識と技術	PDCAサイクル	リーダーシップ論	講義	
第11回	看護単位と機能の特徴	看護ケア提供システム			講義
第12回	看護サービスのマネジメントの対象と範囲 (人材・施設設備・物品・情報)	リスクマネジメント (安全対策、医療事故対策)	チーム医療	サービスの評価	講義
第13回	日常業務のマネジメント	1日の業務の組み立て方	優先順位と多重課題	タイムマネジメント	講義
第14回	看護職のキャリア形成	看護職の技能習得段階	臨床実践能力の向上	講義	
第15回	先輩の看護に学ぶ	看護科3年生ケーススタディ発表参加	講義		
《成績評価の方法と基準》 看護概論 (7回) 50点 国際看護 (2回) 15点 看護管理 (5回) 30点 ケーススタディ聴講 (1回) 5点 受講態度・出席状況・提出物を含む					
《受講上の注意》 一人ひとりが学習目標を達成できるようになってください。					
《使用教材 (教科書) 及び参考図書》					
1、医学書院 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学① 看護学概論 2、医学書院 系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践① 看護管理 3、医学書院 系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践③ 災害看護学・国際看護学 4、医学書院 系統看護学講座 別巻 看護研究					

2023 年度 授業計画 (シラバス)

教育内容	基礎看護学	対象学年	1年	授業時間数	30時間(15回)
科目名	基礎看護学援助論Ⅰ (共通技術)	学期	前期	授業単位数	1単位
担当教員	川後田 美穂子 岩屋 弓子	実務経験と その関連資格	感染管理認定看護師 看護師		
《科目全体のねらい・授業目標》 基本的な看護技術の土台となる技術について習得することができる。					
《事前学習内容》 入学説明会で提示された、入学前課題「実習事前学習 基礎看護技術」に取り組み講義に臨むこと。					
《DPとの関連》 DP. 3 患者への能動的な思いや願いを根底にもち患者と向き合い、洞察と内省を繰り返し看護を実践することができる。 DP. 4 健康段階を理解し健康状態やその変化を臨床判断し、科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。 DP. 6 探究心と挑戦する姿勢をもち主体的に学び続け、看護の質の向上を図ることができる。					
授業の方法	内 容				
第1回	看護技術を適切に実践するための要素				
第2回	「コミュニケーション技術」 効果的なコミュニケーションの実際				
第3回	[安全確保の技術] 事故防止の基礎知識 誤薬・チューブ類の事故・患者誤認・転倒転落 薬剤・放射線暴露				
第4回	「看護過程の基礎知識」 5つの構成要素・問題解決思考・クリティカルシンキング・リフレクション				
第5回	「看護過程の基礎知識」 アセスメント・看護問題の抽出				
第6回	「看護過程の基礎知識」 計画・実践・評価				
第7回	「看護記録」 法的な位置づけ・構成・目的・機能・留意点				
第8回	「看護研究」 目的・意義・種類 研究の問い(リサーチクエスション)とは				
第9回	「看護研究」 文献検索・文献クリティークの基礎				
第10回	「看護研究」 研究計画書の書き方				
第11回	「感染予防の技術」 標準予防策(スタンダードプリコーション) 感染経路別予防策・洗浄・滅菌・無菌操作				
第12回	「感染予防の技術」 針刺し防止策・事故後の対応 医療施設における感染管理				
第13回	「感染予防の技術」 必要な防護用具(手袋、ゴーグル、ガウン等) 感染性廃棄物の取扱い				
第14回	「学習支援」 看護における学習支援の基本的な考え方				
第15回	「学習支援」 演習:学習支援				
《成績評価の方法と基準》 成績評価 終講試験 100点(技術試験 提出物を含む) 出席状況 受講態度					
《受講上の注意》 一人ひとりが学習目標を達成できるようになってください。					
《使用教材(教科書)及び参考図書》 1、医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ 3、医学書院 系統看護学講座 別巻 看護研究 4、学研 疾患別看護過程の展開 第6版 5、医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学①看護学概論					

2023 年度 授業計画 (シラバス)

教 育 内 容	基礎看護学	対象学年	1 年	授業時間数	30時間(15回)
科 目 名	基礎看護学援助論Ⅱ (ヘルスアセスメント他)	学 期	前期	授業単位数	1 単位
担 当 教 員	藤崎智文	実務経験と その関連資格	集中ケア認定看護師		
《科目全体のねらい・授業目標》					
スクリーニングとフィジカルイグザミネーションによる情報を統合し、患者の身体状況と持っている力を確認・判断する技術を習得する。					
《事前学習内容》					
入学説明会で提示された、入学前課題「実習事前学習 基礎看護技術」に取り組み講義に臨むこと。					
《DPとの関連》					
DP. 3 患者への能動的な思いや願いを根底にもち患者と向き合い、洞察と内省を繰り返し看護を実践することができる。					
DP. 4 健康段階を理解し健康状態やその変化を臨床判断し、科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。					
授業の 方法	内 容				
第1回	ヘルスアセスメントとは 健康歴とセルフケア能力のアセスメント				
第2回	問診・視診・触診・聴診・打診の技術				
第3回	バイタルサインのアセスメント 体温・脈拍・血圧・呼吸状態・意識レベル				
第4回	バイタルサイン：体温・脈拍・血圧・呼吸状態・意識レベル 身体計測 身長・体重・皮下脂肪厚・腹囲（尿検査を含む）				
第5回	1) ケアにつなげるフィジカルアセスメント 2) 呼吸器系のフィジカルアセスメント				
第6回	3) 循環器系のフィジカルアセスメント				
第7回	4) 乳房・腋窩系のフィジカルアセスメント 5) 腹部のフィジカルアセスメント				
第8回	6) 筋・骨格筋系のフィジカルアセスメント 7) 神経系のフィジカルアセスメント				
第9回	8) 頭頸部と感覚器系のフィジカルアセスメント 9) 外皮系（皮膚・爪）のフィジカルアセスメント				
第10回	心理・社会状態のアセスメント				
第11回	循環、呼吸に関連する症状を示す対象者への看護 安全や生体防御機能に関連する症状を示す対象者への看護				
第12回	栄養・代謝・排泄に関連する症状を示す対象者への看護 認知や知覚に関連する症状を示す対象者への看護 活動や休息、コーピングに関連する症状を示す対象者への看護				
第13回	治療処置を受ける対象者への看護		手術療法を受ける対象者への看護		
第14回	症状からの病態アセスメントと看護		医療機器の原理と実際		
第15回	臨床判断：タナーの臨床判断モデル 気づく・解釈する・反応する・省察する				
《成績評価の方法と基準》					
成績評価 終講試験 100点（技術試験 提出物を含む） 出席状況 受講態度					
《受講上の注意》					
一人ひとりが学習目標を達成できるようになってください。					
《使用教材（教科書）及び参考図書》					
1、医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ					
2、医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学④ 臨床看護学総論					
3、メヂカルフレンド社 初めてのフィジカルアセスメント					

2023 年度 授業計画 (シラバス)

教育内容	基礎看護学	対象学年	1年	授業時間数	30時間(15回)
科目名	基礎看護学援助論Ⅲ (日常生活援助技術)	学期	後期	授業単位数	1単位
担当教員	城戸 順子	実務経験と その関連資格	看護師		
《科目全体のねらい・授業目標》 日常生活行動援助技術について学習する。					
《事前学習内容》 入学説明会で提示された、入学前課題「実習事前学習 基礎看護技術」に取り組み講義に臨むこと。					
《DPとの関連》 DP. 1 看護師としての責務を自覚し、人々の生命・尊厳・権利を尊重した倫理的な判断に基づいた看護を実践することができる。 DP. 3 患者への能動的な思いや願いを根底にもち患者と向き合い、洞察と内省を繰り返し看護を実践することができる。 DP. 4 健康段階を理解し健康状態やその変化を臨床判断し、科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。 DP. 6 探究心と挑戦する姿勢をもち主体的に学び続け、看護の質の向上を図ることができる。					
授業の方法	内 容				
第1回	「活動・休息援助技術」 良い姿勢・ボディメカニクス・体位				
第2回	「活動・休息援助技術」 体位変換・保持 歩行介助 移乗・移送 (車いす・ストレッチャー)				
第3回	「環境調整の援助技術」 ベッド周囲の環境整備・ベッドメイキング 「病床での衣生活の援助」 衣類の選び方・病衣寝衣交換				
第4回	「環境調整の援助技術」 臥床患者のリネン交換 「病床での衣生活の援助」 点滴・ドレーン等を留置している患者の寝衣交換				
第5回	「睡眠・休息の援助」 リラクゼーション、入眠を促す援助他 「苦痛の緩和の援助技術」 安楽な体位/ポジショニング・温電法・冷電法				
第6回 第7回	<事例による演習> 環境調整の援助技術 病床での衣生活の援助 活動・休息の援助技術 苦痛の緩和の援助技術				
第8回 第9回	「食事の援助技術」 食事の意義・栄養評価・食事の介助・摂食嚥下訓練 非経口的栄養摂取 経管栄養法・中心静脈栄養法				
第10回	「排泄の援助技術」 排泄介助 (トイレ・床上) ・おむつによる排泄援助 排便・排尿のアセスメント				
第11回	「排泄の援助技術」 導尿 (一時的・持続的) 排便を促す援助 (浣腸・摘便を含む) ストーマケア				
第12回	「清潔の援助技術」 清潔の意義・入浴・シャワー浴・全身清拭				
第13回	「清潔の援助技術」 洗髪・手浴・足浴・フットケア・陰部洗浄 整容 (爪切りを含む) ・口腔ケア				
第14回 第15回	<事例による演習> 食事の援助技術 (経管栄養を含む) 排泄の援助技術 清潔の援助技術 (衣生活を含む)				
《成績評価の方法と基準》 成績評価 終講試験 100点 (技術試験 提出物を含む) 出席状況 受講態度					
《受講上の注意》 一人ひとりが学習目標を達成できるようになってください。					
《使用教材 (教科書) 及び参考図書》 1、医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ 2、医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学④ 臨床看護学総論					

2023 年度 授業計画 (シラバス)

教育内容	成人看護学	対象学年	1年	授業時間数	15時間(8回)
科目名	成人看護学概論	学期	前期	授業単位数	1単位
担当教員	上門 仁美	実務経験と その関連資格	看護師として病院勤務		
《科目全体のねらい・到達目標》					
成人期にある対象を理解する。成人期の健康問題の特徴と健康に及ぼす影響を理解し、問題を解決するための基本的知識、及び看護の役割を理解する。					
《事前学習内容》					
生活行動がもたらす健康問題とその予防					
《DPとの関連》					
DP.1 看護師としての責務を自覚し、人々の生命・尊厳・権利を尊重した倫理的な判断に基づいた看護を実践することができる。					
DP.2 地域に暮らす対象を身体的・精神的・社会的に統合された存在として幅広く理解するコミュニケーション能力を培うことができる。					
DP.5 保健・医療・福祉システムにおける看護の役割を理解し、多職種と連携・協働し多様な場で生活する人々へ看護を提供することができる。					
授業の方法	内 容				方法
第1回	発達段階の特徴と発達課題				講義
第2回	1. 成人を取り巻く環境と生活からみた健康 2. 生活と健康をまもる保健・医療・福祉システム 3. 大人の学習理論に基づく行動変容・健康行動の促進 ・アンドラゴジー      ・トランスセオリアルモデル				講義
第3回	1. 効果的な看護アプローチのための信頼関係構築 2. 看護におけるマネジメント 3. 看護実践における倫理的判断 4. 意思決定支援				講義
第4回	1. 健康を増進するヘルスプロモーション 2. 健康をおびやかす要因と看護				講義
第5回	1. 健康の急激な破綻と回復を促す看護 2. 慢性病との共存を支えるアプローチ				講義
第6回	1. 障害がある人の生活とリハビリテーション 2. 人生の最期のときを支える看護				講義
第7回	病とともに生活を営む学習支援 ・エンパワメント・エデュケーション ・セルフマネジメント ・自己効力				講義
第8回	1. 症状マネジメントにおける看護技術 2. 振り返りとまとめ				講義
《成績評価の方法と基準》					
終講試験 100点、出席状況、受講態度					
《受講上の注意》					

一人ひとりが学習目標を達成できるようになってください。

《使用教材（教科書）及び参考図書》

専門分野Ⅱ 成人看護学【1】 成人看護学総論

2023 年度 授業計画 (シラバス)

教 育 内 容	成人看護学	対象学年	1 年	授業時間数	30時間(15回)
科 目 名	成人看護学援助論 I	学 期	後期	授業単位数	1 単位
担 当 教 員	柿原 真由美 猿渡 雅之	実務経験と その関連資格	看護師		
《科目全体のねらい・授業目標》					
健康上の多様な問題を明確化して、対象および家族への援助を理解し、病態・治療に応じた看護過程を展開できる総合的な看護の視点を養う。					
《事前学習内容》					
各疾患の病態生理・症状・検査・治療について学習する。					
《D P との関連》					
DP.2 地域に暮らす対象を身体的・精神的・社会的に統合された存在として幅広く理解 するコミュニケーション能力を養う。					
DP.4 健康段階を理解し健康状態やその変化を臨床判断し、科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。					
授業の 方法	内 容				
第1回	腎・泌尿器疾患患者の看護				
第2回	腎・泌尿器疾患患者の看護				
第3回	腎・泌尿器疾患患者の看護				
第4回	アレルギー・膠原病患者の看護				
第5回	呼吸器疾患患者の看護				
第6回	呼吸器疾患患者の看護				
第7回	呼吸器疾患患者の看護				
第8回	血液・造血器疾患患者の看護				
第9回	血液・造血器疾患患者の看護				
第10回	消化器疾患患者の看護				
第11回	消化器疾患患者の看護				
第12回	消化器疾患患者の看護 ストーマケア				
第13回	消化器疾患患者の看護 点滴・ドレーン等を留置している患者の寝衣交換 ドレーン類の挿入部の処置				
第14回	内分泌・代謝疾患患者の看護				
第15回	内分泌・代謝疾患患者の看護				
《成績評価の方法と基準》					
終講試験 100点、出席状況、受講態度					
《受講上の注意》					
一人ひとりが学習目標を達成できるようになってください。					
《使用教材(教科書)及び参考図書》					
専門分野Ⅱ	成人看護学【2】	呼吸器	成人看護学【4】	血液・造血器	
	成人看護学【5】	消化器	成人看護学【6】	内分泌・代謝	
	成人看護学【8】	腎・泌尿器	成人看護学【11】	アレルギー 膠原病 感染症	



2023 年度 授業計画 (シラバス)

教育内容	老年看護学	対象学年	1年	授業時間数	15時間(8回)
科目名	老年看護学概論	学期	前期	授業単位数	1単位
担当教員	河口 喜代美	実務経験と その関連資格	看護師として病院勤務		
<p>《科目全体のねらい・到達目標》</p> <p>老年期にある対象の変化を知り、老年のための保健・医療・福祉サービスの課題を理解し、看護の役割を理解する。</p> <p>①老年期にある人々の発達課題を説明できる。ライフストーリーを聴き、高齢者の発達課題を理解し看護実践への活用ができる。</p> <p>②加齢に関する様々な理論を説明できる。</p> <p>③高齢者の生理的老化とメカニズムを説明できる。</p>					
<p>《事前学習内容》</p> <p>高齢者が生きてきた時代背景や、社会変動(金融恐慌、戦争、戦後の混乱、高度経済成長など)を経験してきている。時代背景を学習しておくこと。</p>					
<p>《DPとの関連》</p> <p>DP.1 看護師としての責務を自覚し、人々の生命・尊厳・権利を尊重した倫理的な判断に基づいた看護を実践することができる。</p> <p>DP.4 健康段階を理解し健康状態やその変化を臨床判断し、科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。</p> <p>DP.6 探究心と挑戦する姿勢をもち主体的に学び続け、看護の質の向上を図ることができる。</p>					
授業の方法	内 容				方法
第1回	1. 老年看護の基盤 1) 老年看護の役割 2) 老年看護における理論・概論の活用 3) 老年看護に携わる者の責務				講義
第2回	2. 対象の理解 1) 老いるということ 2) 老いを生きるということ 3) 高齢者のヘルスアセスメント(身体の加齢変化)				講義
第3回	2. 対象の理解 4) 加齢に伴う心理、精神的機能の変化 5) 高齢者の性 6) 加齢に伴う社会的機能の変化				講義
第4回	3. 超高齢社会と社会保障 1) 超高齢社会の統計的輪郭 2) 保健福祉の動向				講義
第5回	4. 高齢者と家族 1) 家族の健康と生活 2) 家族への支援				講義
第6回	5. 老年症候群(定義と分類)				講義
第7回	5. 老年症候群 1) 急性・慢性疾患に付随する症候 2) ADL低下に合併する症候				講義
第8回	6. 高齢者の人権と倫理的問題 1) 高齢者虐待 2) 身体拘束 3) 権利擁護のための制度				講義
<p>《成績評価の方法と基準》</p> <p>終講試験80点(課題20点含む)、出席状況、受講態度</p>					

《受講上の注意》

一人ひとりが学習目標を達成できるようになってください。

《使用教材（教科書）及び参考図書》

1. 系統看護学講座 老年看護学 医学書院

2023 年度 授業計画 (シラバス)

教育内容	小児看護学	対象学年	1年	授業時間数	15時間(8回)
科目名	小児看護学概論	学期	前期	授業単位数	1単位
担当教員	大町 福美	実務経験とその関連資格	看護師として病院勤務		
<p>《科目全体のねらい・到達目標》</p> <p>子どもと家族が主体となるケアの理念に基づき一貫して看護の対象となる人々の主観や関係性を共有し尊重することを基本とし、すべての健康レベルの子どもを対象としてその成熟過程を支える看護を学ぶ 小児看護の役割と機能を理解する。</p>					
<p>《事前学習内容》</p> <p>事前にテキストを読む。 指定された課題学習を行う。</p>					
<p>《DPとの関連》</p> <p>DP.1看護師としての責務を自覚し、人々の生命・尊厳・権利を尊重した倫理的な判断に基づいた看護を実践することができる</p> <p>DP.2地域に暮らす対象を身体的・精神的・社会的に統合された存在として幅広く理解するコミュニケーション能力を培うことができる。</p> <p>DP.4健康段階を理解し健康状態やその変化を臨床判断し、科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。</p> <p>DP.5保健・医療・福祉システムにおける看護の役割を理解し、多職種と連携・協働し多様な場で生活する人々へ看護を提供することができる。</p> <p>DP.6探究心と挑戦する姿勢をもち主体的に学び続け、看護の質の向上を図ることができる。</p>					
授業の方法	内 容				方法
第1回	小児看護の対象, 小児看護の目標, 小児看護の変遷と課題が理解できる。				講義
第2回	小児看護の場と特徴, 小児看護の諸統計が理解できる。				講義
第3回	子どもの人権, 小児看護における理論が理解できる。				講義
第4回	子どもの成長と発達を理解できる。				講義
第5回	子どもの成長と発達を理解できる。				講義
第6回	子どもと家族を取り巻く社会が理解できる。				講義
第7回	子どもの虐待と看護, 子どもの事故が理解できる。				講義
第8回	家族の特徴とアセスメントが理解できる。				講義
<p>《成績評価の方法と基準》</p> <p>筆記試験 80点 課題20点 出席状況 受講態度</p>					
<p>《受講上の注意》</p> <p>一人ひとりが学習目標を達成できるようになってください。</p>					
<p>《使用教材(教科書)及び参考図書》</p> <p>小児看護学概論〔系看 専門Ⅱ 小児看護学1〕</p>					



## 2023 年度 授業計画 (シラバス)

教 育 内 容	小児看護学	対象学年	1 年	授業時間数	30時間(15回)
科 目 名	小児看護学援助論 I	学 期	前期	授業単位数	1 単位
担 当 教 員	古賀 龍夫 松浦 稔展 棚成 嘉文 坂西 信平	実務経験と その関連資格	医師		
《科目全体のねらい・授業目標》 健康障害をもつ小児各期にある対象の特徴について学び、対象である小児のみならず、周囲の環境と関連させながら理解する。					
《事前学習内容》 事前にテキストを読む。 指定された課題学習を行う。					
《DP との関連》 DP.4 健康段階を理解し健康状態やその変化を臨床判断し、科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。					
授業の 方法	内 容				
第1回	第1章 染色体異常、胎内環境により発症する先天異常と看護 第2章 新生児の看護が理解できる。				
第2回	第3章 代謝性疾患				
第3回	第4章 内分泌疾患と看護				
第4回	第5章 免疫疾患、アレルギー性疾患 リウマチ性疾患と看護				
第5回	第6章 感染症と看護				
第6回	第7章 呼吸器疾患と看護				
第7回	第8章 循環器疾患と看護				
第8回	第9章 消化器疾患と看護				
第9回	第10章 血液、造血器疾患と看護				
第10回	第11章 悪性新生物と看護				
第11回	第12章 腎・泌尿器および生殖器疾患と看護				
第12回	第13章 神経疾患と看護				
第13回	第14章 運動器疾患と看護 第15章 皮膚疾患と看護				
第14回	第16章 眼疾患と看護 第17章 耳鼻咽喉疾患と看護				
第15回	第18章 精神疾患と看護				
《成績評価の方法と基準》 終講試験 100点、出席状況、受講態度					
《受講上の注意》 一人ひとりが学習目標を達成できるようになってください。					
《使用教材(教科書)及び参考図書》 小児看護学各論〔系看 専門Ⅱ 小児看護学2〕					

2023 年度 授業計画 (シラバス)

教育内容	小児看護学	対象学年	1年	授業時間数	30時間(15回)
科目名	小児看護学援助論Ⅱ	学期	後期	授業単位数	1単位
担当教員	徳満絵理香 倉崎 美架	実務経験と その関連資格	看護師		
《科目全体のねらい・授業目標》 小児期の成長発達・健康維持から生じる健康問題に対する看護の具体的方法を学び、小児看護の特徴を踏まえた看護過程を展開し、統合的な看護の視点を養う。					
《事前学習内容》 発達段階の理解 疾患に関する知識					
《DPとの関連》 DP.1看護師としての責務を自覚し、人々の生命・尊厳・権利を尊重した倫理的な判断に基づいた看護を実践することができる。 DP.2地域に暮らす対象を身体的・精神的・社会的に統合された存在として幅広く理解するコミュニケーション能力を培う。 DP.4健康段階を理解し健康状態やその変化を臨床判断し、科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。 DP.5保健・医療・福祉システムにおける看護の役割を理解し、多職種と連携・協働し多様な場で生活する人々へ看護を提供することができる。					
授業の方法	内 容				
第1回	第1章 病気・障害を持つ子どもと家族の看護 第7章 障害のある子どもと家族の看護				
第2回	第2章 子どもの状況（環境）に特徴づけられる看護				
第3回	第3章 子どもにおける疾病の経過と看護				
第4回	第4章 子どものアセスメント				
第5回	第5章 症状を示す子どもの看護①				
第6回	第5章 症状を示す子どもの看護①				
第7回	第6章 検査・処置を受ける子どもの看護①				
第8回	第6章 検査・処置を受ける子どもの看護② 遊びによる医療的説明（プレパレーション、ディストラクション）				
第9回 第10回 第11回 第12回 第13回	疾患を持った子どもの看護 代謝性疾患、内分泌疾患、免疫疾患、アレルギー性疾患 リウマチ性疾患、感染症、呼吸器疾患、循環器疾患 消化器疾患、血液、造血器疾患、悪性新生物、 腎・泌尿器および生殖器疾患、神経疾患、 運動器疾患、皮膚疾患、眼疾患、耳鼻咽喉疾患、精神疾患				
第14回	事例による看護過程の展開				
第15回	事例による看護過程の展開				
《成績評価の方法と基準》 終講試験100点（課題20点含む）、出席状況、受講態度					
《受講上の注意》 一人ひとりが学習目標を達成できるようになってください。					
《使用教材（教科書）及び参考図書》 小児看護学概論〔系看 専門Ⅱ 小児看護学1〕 小児看護学各論〔系看 専門Ⅱ 小児看護学2〕					

2023 年度 授業計画 (シラバス)

教育内容	母性看護学	対象学年	1年	授業時間数	15時間(8回)
科目名	母性看護学概論	学期	後期	授業単位数	1単位
担当教員	大町福美	実務経験と その関連資格	助産師として病院勤務		
<p>《科目全体のねらい・到達目標》</p> <p>①母性看護を実践する上で生命を尊び、必要な諸理論「愛着形成・役割理論・家族の発達・リプロダクティブヘルス/ライツ・Sexuality・母性看護の生命倫理、母性看護の中心概念」について学習し説明できる。</p> <p>②人間の生と生殖の意義を理解し、生命の尊厳と生命倫理について考えを深めることができる。</p> <p>③母子保健の歴史の変遷・統計・法律について学習し母性保健の課題について考えることができる。</p> <p>①②③より母性看護における看護の役割と課題について自分なりの考えをまとめることができる。</p>					
<p>《事前学習内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教科書の関連領域・資料は事前に読んでおくこと。</li> <li>女性の形態・機能(生殖生理)については理解し覚える。授業時に知識の確認テストをします。</li> </ul>					
<p>《DPとの関連》</p> <p>DP.1 看護師としての責務を自覚し、人々の生命・尊厳・権利を尊重した倫理的な判断に基づいた看護を実践することができる。</p> <p>DP.6 探究心と挑戦する姿勢をもち主体的に学び続け、看護の質の向上を図ることができる。</p>					
授業の方法	内 容				方法
第1回	母性とは何か:「母性」の概念について 母性看護の中心概念である「女性中心の看護」「家族中心の看護」について				講義
第2回	母性看護学の基盤となる概念①ヘルスプロモーション②リプロダクティブヘルス/ライツ③母性看護の在り方について学ぶ 母親役割「ルービン」「マーサー」理論 ほか				講義
第3回	母性を取り巻く社会の変遷と現状:母性看護の歴史の変遷を知る。				講義
第4回	母子保健統計:母子保健統計を読み、母子保健の現状をイメージし、今後の母性看護の在り方、課題を考える。				講義
第5回	母性保健の法律:①母子保健法②労働基準法③男女雇用機会均等法④育児・介護休業法⑤母体保護法⑥死産の届け出に関する規定⑦戸籍法 ほか・講義③④⑤を学び母性看護の課題と求められる取組についてレポート				講義
第6回	母性看護の対象の特徴を理解する:女性の身体的特徴①解剖学的特徴と生殖生理②生殖機能の特徴と変化からみた女性のライフサイクル				講義
第7回	人間の性と生殖の意義を理解する:①女性と男性以外の性・性同一性障害(LGBT)・性分化疾患②社会的性同一性(ジェンダー)				講義
第8回	児童虐待と母子関係の課題:①児童虐待の現状と対応②母子及び父子関係の課題 母性看護学概論のまとめ:①母性看護の役割と課題③倫理的問題				講義
<p>《成績評価の方法と基準》</p> <p>終講試験 100点、出席状況、受講態度</p>					
<p>《受講上の注意》</p>					

一人ひとりが学習目標を達成できるようになってください。

《使用教材（教科書）及び参考図書》

系統看護学講座 専門分野 母性看護学【Ⅰ】母性看護学概論(医学書院)

系統看護学講座 専門分野 母性看護学【Ⅱ】母性看護学各論(医学書院)



2023 年度 授業計画 (シラバス)

教 育 内 容	精神看護学	対象学年	1 年	授業時間数	15時間(8回)
科 目 名	精神看護学概論	学 期	後期	授業単位数	1 単位
担 当 教 員	藤岡 賢至	実務経験と その関連資格	看護師		
《科目全体のねらい・授業目標》					
精神看護の基本的概念を理解し、人の健康な精神生活を支えるための看護の意義と目的、方法を学ぶ。 心の発達と健康について学び、精神看護の目的・対象の機能と役割について学ぶ。					
《事前学習内容》					
ライフサイクル、成長発達段階					
《DPとの関連》					
DP. 1 地域に暮らす人々の健康的な暮らしを理解できる。					
DP. 1 対象の身体的・精神的・社会的に統合された存在として幅広く理解する。					
DP. 4 健康段階を理解し健康状態やその変化を臨床判断し、科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。					
授業の 方法	内 容				
第 1 回	導入・精神看護学で学ぶこと A. 精神看護学とその課題 B. 精神障害者の体験と精神看護				
第 2 回	1. 精神看護学で学ぶこと D. 精神看護学で何を学ぶか				
第 3 回	2. 精神保健の考え方 A. 精神の健康とは B. 精神障害のとらえ方				
第 4 回	2. 精神保健の考え方 C. ストレスと健康の危機 D. 心的外傷が及ぼす影響				
第 5 回	2. 精神保健の考え方 E. 回復を支える力				
第 6 回	2. 精神保健の考え方 E. 回復を支える力				
第 7 回	3. 社会の中の精神障害 A. 精神障害の治療と歴史 B. 日本における精神医学・精神医療の流れ				
第 8 回	3. 社会の中の精神障害 C. 精神障害と文化 D. 精神障害と社会学 E. 精神障害と法制度				
《成績評価の方法と基準》					
終講試験 100点、出席状況、受講態度					
《受講上の注意》					
一人ひとりが学習目標を達成できるようになってください。					
《使用教材(教科書)及び参考図書》					
系統看護学講座 精神看護の基礎 精神看護学① 医学書院					

科目名	年次	単位 (時間)	区分	講師名
心理学	2	1 (30)	基礎分野	新牧 恭太

**【授業の目的・ねらい】**

人間の心や行動を総合的にとらえ、人間理解を深める。

**【授業計画】**

回数	講義内容
第1回	オリエンテーション
第2回	ストレス
第3回	感情・知覚・記憶
第4回	人格心理学
第5回	発達心理学1
第6回	発達心理学2
第7回	社会心理学
第8回	アセスメント1
第9回	アセスメント2
第10回	臨床心理学1
第11回	臨床心理学2
第12回	医療従事者の心理1
第13回	医療従事者の心理2
第14回	学習心理学
第15回	まとめ

**【使用テキスト】**

配布資料

**【評価方法】**

終講試験

科目名	年次	単位 (時間)	区分	講師名
英語 (英会話)	2	1 (30)	基礎分野	松尾 直子

【授業の目的・ねらい】

コミュニケーションの手段である語学を学び、国際的感覚を身につけ、看護に必要な英会話の基礎を習得する。

【授業計画】

回数	講義内容
第1回	オリエンテーション 自己紹介
第2回	Unit 1: Please speak more slowly.
第3回	Unit 2: Where are you from?
第4回	Unit 3: Could you tell me your address , please?
第5回	Unit 4: What department do you want to visit?
第6回	Unit 5: Where is the x-ray department?
第7回	Unit 6: What are your symptoms?
第8回	Review Units 1-6
第9回	Unit 7: Where does it hurt?
第10回	Unit 8: Have you ever had any serious illness?
第11回	Unit 9: Take one tablet, four times a day.
第12回	Unit 10: Let me make an appointment for your test
第13回	Unit 11: Your surgery will be tomorrow at 9a.m.
第14回	Unit 12: How are you feeling today?
第15回	Review Units 7~ 12

【使用テキスト】

クリスティーンのやさしい看護英会話

【評価方法】

学科試験

授業内課題、小テスト、終講試験

科目名	年次	単位（時間）	区分	講師名
解剖生理学Ⅱ 脳・神経系	2	1（8）	専門基礎分野	倉本 晃一

**【授業の目的・ねらい】**

人体の構造と機能を系統的に理解し、看護に必要な解剖生理学の知識を習得し、またそれらの知識が生命、生活になぜ必要なのかについて理解する。

**【授業計画】**

回数	講義内容
第1回	・神経系の構造と機能 （大脳、小脳、間脳）
第2回	・神経系の構造と機能（脳幹、脊髄） ・脳室と髄膜
第3回	・運動機能と下降伝導路 ・体性感覚と上行伝導路、痛み（疼痛）
第4回	・脳の統合機能

**【使用テキスト】**

系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能【1】解剖生理学 医学書院

**【評価方法】**

終講試験

科目名	年次	単位（時間）	区分	講師名
解剖生理学Ⅱ 運動器系	2	1（8）	専門基礎分野	上田 淳

**【授業の目的・ねらい】**

人体の構造と機能を系統的に理解し、看護に必要な解剖生理学の知識を習得し、またそれらの知識が生命、生活になぜ必要なのかについて理解する。

**【授業計画】**

回数	講義内容
第1回	医学書院 系統看護学講座 解剖生理学Ⅱ 「身体の支持と運動」 人体の骨格、体幹の骨格筋
第2回	医学書院 系統看護学講座 解剖生理学Ⅱ 「身体の支持と運動」 上肢の骨格と筋、下肢の骨格と筋
第3回	医学書院 系統看護学講座 解剖生理学Ⅱ 「身体の支持と運動」 頭頸部の骨格と筋
第4回	医学書院 系統看護学講座 解剖生理学Ⅱ 「身体の支持と運動」 筋の収縮

**【使用テキスト】**

系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能【1】解剖生理学 医学書院

**【評価方法】**

終講試験

科目名	年次	単位 (時間)	区分	講師名
解剖生理学Ⅱ 眼 系	2	1 (4)	専門基礎分野	諸岡 居織

**【授業の目的・ねらい】**

人体の構造と機能を系統的に理解し、看護に必要な解剖生理学の知識を習得し、またそれらの知識が生命、生活になぜ必要なのかについて理解する。

**【授業計画】**

回数	講義内容
第1回	眼の解剖と生理をスライドを使い理解を深める
第2回	眼の解剖と生理をスライドを使い理解を深める

**【使用テキスト】**

系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能【1】解剖生理学 医学書院

**【評価方法】**

テストの点数と出席点を総合して評価する

**【備考】**

脳神経を説明する VHS を共覧する

科目名	年次	単位（時間）	区分	講師名
解剖生理学Ⅱ 耳鼻系	2	1（2）	専門基礎分野	関 正大

**【授業の目的・ねらい】**

人体の構造と機能を系統的に理解し、看護に必要な解剖生理学の知識を習得し、またそれらの知識が生命、生活になぜ必要なのかについて理解する。

**【授業計画】**

回数	講義内容
第1回	耳・鼻・咽頭・喉頭の解剖および生理機能

**【使用テキスト】**

系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能【1】解剖生理学 医学書院

**【評価方法】**

終講試験

科目名	年次	単位（時間）	区分	講師名
解剖生理学Ⅱ 皮膚系	2	1（2）	専門基礎分野	荒川 正崇

**【授業の目的・ねらい】**

人体の構造と機能を系統的に理解し、看護に必要な解剖生理学の知識を習得し、またそれらの知識が生命、生活になぜ必要なのかについて理解する。

**【授業計画】**

回数	講義内容
第1回	皮膚の構造と機能について学ぶ

**【使用テキスト】**

系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能【1】解剖生理学 医学書院

**【評価方法】**

終講試験



科目名	年次	単位（時間）	区分	講師名
解剖生理学Ⅱ 歯 系	2	1（4）	専門基礎分野	阿津坂 崇士

**【授業の目的・ねらい】**

人体の構造と機能を系統的に理解し、看護に必要な解剖生理学の知識を習得し、またそれらの知識が生命、生活になぜ必要なのかについて理解する。

**【授業計画】**

回数	講義内容
第1回	解剖生理学
第2回	解剖生理学

**【使用テキスト】**

系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能【1】解剖生理学 医学書院

**【評価方法】**

終講試験

科目名	年次	単位（時間）	区分	講師名
疾病各論Ⅲ 循環器系	2	1（30）	専門基礎分野	紫原美和子 貞松研二 江藤和子 久貝忠大

【授業の目的・ねらい】

循環器系の疾患に関して病態・検査・治療予後を理解する。

【授業計画】

回数	講義内容	講師
第1回	① 循環器概論 ② ②心臓の構造・機能	紫原
第2回	症状とその病態生理（1）	紫原
第3回	症状とその病態生理（2） ①問診・身体所見のとり方	紫原
第4回	検査（1）	江藤
第5回	検査（1）	江藤
第6回	治療・処置（1）	久貝
第7回	治療・処置（2）	久貝
第8回	虚血性心疾患（1）	貞松
第9回	虚血性心疾患（2）	貞松
第10回	心不全・血圧	江藤
第11回	不整脈（1）	貞松
第12回	不整脈（2）	貞松
第13回	弁膜症・心膜疾患・心筋疾患	久貝
第14回	動脈・静脈・リンパ系疾患	貞松
第15回	先天性心疾患・総括	紫原

【使用テキスト】

系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能【1】解剖生理学 医学書院  
 系統看護学講座 専門分野 成人看護学【3】 循環器 医学書院

【評価方法】

終講試験

科目名	年次	単位（時間）	区分	講師名
疾病各論Ⅳ 脳・神経系	2	1（12）	専門基礎分野	山下 伸 江藤 朋子

【授業の目的・ねらい】

脳・神経系疾患に関して病態・検査・治療予後を理解する。

【授業計画】

回数	講義内容	講師
第1回	症状と病態生理、意識障害、高次脳機能障害、運動機能障害、感覚機能障害	江藤
第2回	頭蓋内圧亢進症状と脳ヘルニア 神経系の補助検査法	江藤
第3回	脳血管障害、脳腫瘍	山下
第4回	頭部外傷、水頭症、感染症	山下
第5回	神経、筋疾患、脱髄・変性疾患、中毒、てんかん、 認知症 ニューロパチー	山下
第6回	まとめ（脳神経各論）	山下

【使用テキスト】

系統看護学講座 専門分野 成人看護学【7】脳・神経

医学書院

【評価方法】

終講試験

科目名	年次	単位（時間）	区分	講師名
疾病各論Ⅳ 皮膚系	2	1（4）	専門基礎分野	荒川 正崇

**【授業の目的・ねらい】**

感覚器系疾患に関して病態・検査・治療予後を理解する。

**【授業計画】**

回数	講義内容
第1回	皮膚疾患の症状、検査、治療について学ぶ
第2回	皮膚疾患について各疾患について学ぶ

**【使用テキスト】**

系統看護学講座 専門分野 成人看護学【12】皮膚

医学書院

**【評価方法】**

終講試験

科目名	年次	単位（時間）	区分	講師名
疾病各論Ⅳ 眼 系	2	1（4）	専門基礎分野	諸岡 居織

**【授業の目的・ねらい】**

感覚器系疾患に関して病態・検査・治療予後を理解する。

**【授業計画】**

回数	講義内容
第1回	眼疾患に関してスライドとビデオを用いて理解していただく
第2回	眼疾患に関してスライドとビデオを用いて理解していただく

**【使用テキスト】**

系統看護学講座 専門分野 成人看護学【13】眼

医学書院

**【評価方法】**

終講試験

科目名	年次	単位（時間）	区分	講師名
疾病各論Ⅳ 耳鼻咽喉系	2	1（6）	専門基礎分野	関 正大

**【授業の目的・ねらい】**

感覚器系疾患に関して病態・検査・治療予後を理解する。

**【授業計画】**

回数	講義内容
第1回	耳・鼻の疾病および治療
第2回	咽喉頭の疾病および治療
第3回	総論 まとめ

**【使用テキスト】**

系統看護学講座 専門分野 成人看護学【14】 耳鼻咽喉

医学書院

**【評価方法】**

終講試験

科目名	年次	単位（時間）	区分	講師名
疾病各論Ⅳ 歯・口腔系	2	1（4）	専門基礎分野	阿津坂 崇士

**【授業の目的・ねらい】**

感覚器系疾患に関して病態・検査・治療予後を理解する。

**【授業計画】**

回数	講義内容
第1回	歯・口腔系疾病各論（歯、歯周病）
第2回	歯・口腔系疾病各論（口腔ケア等）

**【使用テキスト】**

系統看護学講座 専門分野 成人看護学【15】歯・口腔

医学書院

**【評価方法】**

終講試験

科目名	年次	単位 (時間)	区分	講師名
疾病各論Ⅴ 運動器系	2	1 (16)	専門基礎分野	金崎 克也

【授業の目的・ねらい】

運動器疾患に関して病態・検査・治療・予後を理解する。

【授業計画】

回数	講義内容
第1回	第2章 運動器と構造と機能
第2回	第3章 症状とその病態生理
第3回	第4章 診断・検査と治療・処置
第4回	第5章 IA 骨折
第5回	第5章 IB～E 脱臼、捻挫および打撲、神経の損傷、筋・腱・靭帯などの損傷
第6回	第5章 IIA・B 先天性疾患、骨・関節の炎症性疾患
第7回	第5章 IIC～E 骨腫瘍および軟部腫瘍、代謝性骨疾患、腱の疾患
第8回	第5章 IIF～M 神経・筋疾患、上肢および上肢帯の疾患、脊椎の疾患、下肢および下肢帯の疾患、ロコモティブシンドロームと運動器不安症、フレイル、サルコペニア、廃用症候群

【使用テキスト】

系統看護学講座	専門基礎分野	人体の構造と機能【1】	解剖生理学	医学書院
系統看護学講座	専門分野	成人看護学【10】	運動器	医学書院

【評価方法】

学科試験



科目名	年次	単位（時間）	区分	講師名
疾病各論Ⅴ リハビリテーション論	2	1（14）	専門基礎分野	関 誠

**【授業の目的・ねらい】**

リハビリテーションの意義を理解し、機能障害や能力低下に対応できる訓練や代償方法を学び、リハビリテーション看護の方法論を習得する。

**【授業計画】**

回数	講義内容
第1回	第1章 リハビリテーション概論
第2回	第2章 リハビリテーション看護概論
第3回	第3章 運動器系の障害とリハビリテーション看護
第4回	第3章 運動器系の障害とリハビリテーション看護
第5回	第4章 中枢神経系の障害とリハビリテーション看護
第6回	第4章 中枢神経系の障害とリハビリテーション看護
第7回	第5章 呼吸循環系の障害とリハビリテーション看護 第6章 感覚器系の障害とリハビリテーション看護

**【使用テキスト】**

系統看護学講座 別冊 リハビリテーション看護

医学書院

**【評価方法】**

学科試験

科目名	年次	単位（時間）	区分	講師名
総合医療論	2	1（16）	専門基礎分野	富安 信夫

【授業の目的・ねらい】

個人・集団の健康の保持・増進のための、組織的な保健活動について理解する。

【授業計画】

回数	講義内容
第1回	1章 生きることと死ぬこと
第2回	2章 医学と医療 日本の医療について
第3回	3章 保健・医療・介護 切れ目のないサポート実現
第4回	3章 保健・医療・介護 切れ目のないサポート実現
第5回	3章 保健・医療・介護 切れ目のないサポート実現
第6回	4章 医療と社会
第7回	5章 医療経済学と医療政策
第8回	総括・テスト対策

【使用テキスト】

系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度【1】 医学概論 医学書院

【評価方法】

終講試験

科目名	年次	単位（時間）	区分	講師名
公衆衛生	2	1（30）	専門基礎分野	山本 賢也 藤田裕美子 小林 美沙 宿利 周子 吉永 愛 植田恵理子

【授業の目的・ねらい】

公衆衛生学を学ぶことを通して、個人、集団の健康の保持・増進のための、組織的な保健活動について理解する。

【授業計画】

回数	講義内容	講師
第1回	第1章 公衆衛生のエッセンス	山本
第2回	第2章 公衆衛生の活動対象 第3章 公衆衛生の仕組み	山本
第3回	第4章 集団の健康をとらえるための手法—疫学・保健・統計 第7章 国際保健	山本
第4回	第5章 環境と健康	山本
第5回	第6章 感染症とその予防対策	山本
第6回	第9章 学校と健康	山本
第7回	第10章 職場と健康 第11章 健康危機管理・災害保険	山本
第8回	まとめ	山本
第9回	第8章A、第3章C、D、E	宿利
第10回	第8章C・F（成人・高齢者）	藤田
第11回	第8章B・F（乳幼児期）	植田
第12回	第8章B	植田
第13回	第8章D	吉永
第14回	第8章E	吉永
第15回	第8章G	小林

【使用テキスト】

系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度【2】 公衆衛生 医学書院  
国民衛生の動向

【評価方法】 終講試験

科目名	年次	単位（時間）	区分	講師名
関係法規	2	1（30）	専門基礎分野	山下 一幸

【授業の目的・ねらい】

法令の基本となる、保健師助産師看護師法について理解し、看護師の法的責任と義務を習得する。

【授業計画】

回数	講義内容
第1回	第2章 看護法、第5章 薬事法
第2回	第3章 医事法
第3回	第4章 保健衛生法（精神保健福祉法以外）
第4回	第4章 保健衛生法（精神保健福祉法以外）
第5回	第4章 保健衛生法（精神保健福祉法以外）
第6回	第4章 保健衛生法（精神保健福祉法のみ）
第7回	過去問演習(第108回午前問題)
第8回	第7章 社会保険法
第9回	第7章 社会保険法
第10回	第7章 社会保険法
第11回	過去問演習(第108回午後問題)
第12回	第8章 福祉法
第13回	第8章 福祉法
第14回	第9章 労働法と社会基盤整備環
第15回	第10章 環境法 終講試験について

【使用テキスト】

系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度 【4】看護関係法令 医学書院

【評価方法】

終講試験

科目名	年次	単位（時間）	区分	講師名
社会福祉	2	1（30）	専門基礎分野	夏目 尚

【授業の目的・ねらい】

- （1）人々の生涯を通じて起こる健康や障害をめぐる問題の、社会構造的な側面について理解する。
- （2）そのような問題の当事者のニーズに対応した社会資源を活用できるように、必要な知識と基礎的な能力を養う内容とする。
- （3）そのための保健医療福祉に関する基本概念、関係制度、関係する職種の役割について理解する。

【授業計画】

回数	講義内容
第1回	イントロダクション 社会保障制度と社会福祉
第2回	現代社会の変化と社会保障・社会福祉
第3回	医療保障制度（1）
第4回	医療保障制度（2）
第5回	介護保険制度（1）
第6回	介護保険制度（2）
第7回	所得保障制度
第8回	公的扶助
第9回	社会福祉制度（1）～高齢者～
第10回	社会福祉制度（2）～障害者①～
第11回	社会福祉制度（3）～障害者②～
第12回	社会福祉制度（4）～児童～
第13回	ソーシャルワーク
第14回	社会福祉の歴史
第15回	まとめ 国家試験対策

【使用テキスト】

系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障 【3】 社会保障・社会福祉

医学書院

【評価方法】

終講試験

科目名	年次	単位（時間）	区分	講師名
基礎看護学援助論Ⅴ	2	1（30）	専門分野Ⅰ	富松 高司 藤崎 智文

【授業の目的・ねらい】

ヘルスアセスメントの基礎を学び、対象のフィジカルアセスメントが実践できる。

【授業計画】

回数	講義内容
第1回	ヘルスアセスメントとは 意義と目的 必要な技術（問診・視診・触診・聴診・打診）
第2回	ヘルスアセスメントの実際 全体を観察する（バイタルサイン） バイタルサインのアセスメント 体温、血圧、意識レベル、頭頸部 呼吸器系
第3回	呼吸器系のフィジカルアセスメント
第4回	呼吸器系・循環器系のフィジカルアセスメント
第5回	循環器系のフィジカルアセスメント
第6回	循環器系のフィジカルアセスメント
第7回	腹部のフィジカルアセスメント
第8回	腹部 栄養のフィジカルアセスメント
第9回	乳房・腋窩（自己診断）のフィジカルアセスメント 神経系 感覚系のフィジカルアセスメント
第10回	筋・骨格系のフィジカルアセスメント
第11回	心理・社会状態のアセスメント
第12回	フィジカルアセスメント概論 バイタルサインのフィジカルアセスメント
第13回	バイタルサインのフィジカルアセスメント 系統別フィジカルアセスメント
第14回	系統別フィジカルアセスメント 心理・社会状態のフィジカルアセスメント
第15回	事例アセスメント

【使用テキスト】

系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学【2】基礎看護技術Ⅰ  
はじめてのヘルスアセスメント

医学書院  
メジカルフレンド

【評価方法】

終講試験

科目名	年次	単位（時間）	区分	講師名
成人看護学援助論Ⅱ	2	1（30）	専門分野Ⅱ	後藤 泰成 平塚 真実 梅原 由美

【授業の目的・ねらい】

健康上の多様な問題を明確化して、対象および家族への援助を理解し、病態・治療に応じた看護過程を展開でき、総合的な看護の視点を養う。

【授業計画】

回数	講義内容	講師
第1回	第1章 女性生殖器患者の看護を学ぶにあたって 第6章 患者の看護 外来、病棟における看護、症状と病態に対する看護 疾患をもつ患者の経過と看護	梅原
第2回	第6章 患者の看護 臓器別疾患 機能的疾患患者の看護	梅原
第3回	第6章 患者の看護 手術を受ける患者の看護 化学療法、放射線療法 ホルモン療法を受ける患者の看護	梅原
第4回	運動器成人看護⑩ 第1章運動器の看護を学ぶにあたって 第6章患者の看護	平塚
第5回	第6章患者の看護 A疾患をもつ患者の経過と看護、C症状に対する看護、 ②関節リウマチ患者の経過と看護、③クラッシュシンドローム	平塚
第6回	第6章患者の看護、C症状に対する看護③クラッシュシンドローム G疾患をもつ患者の看護⑤関節リウマチ患者の看護	平塚
第7回	第1章 循環器の看護を学ぶにあたって 第6章 疾患を持つ患者の経過と看護	後藤
第8回	第6章 症状に対する看護 第6章 検査を受ける患者の看護	後藤
第9回	第6章 治療を受ける患者の看護 第6章 疾患をもつ患者の看護	後藤
第10回	第6章 心臓リハビリテーションと看護 第1章 脳・神経の看護を学ぶにあたって	後藤
第11回	第6章 疾患を持つ患者の経過と看護 第6章 症状・障害を持つ患者の看護	後藤
第12回	第6章 治療、処置を受ける患者の看護	後藤
第13回	第6章 疾患をもつ患者の看護	後藤
第14回	看護過程の展開	後藤
第15回	看護過程の展開	後藤

【使用テキスト】

系統看護学講座	専門分野	成人看護学	【3】	循環器	医学書院
系統看護学講座	専門分野	成人看護学	【7】	脳・神経	医学書院
系統看護学講座	専門分野	成人看護学	【9】	女性生殖器	医学書院
系統看護学講座	専門分野	成人看護学	【10】	運動器	医学書院

【評価方法】

終講試験



科目名	年次	単位(時間)	区分	講師名
老年看護学援助論Ⅰ	2	1(30)	専門分野Ⅱ	成清 友貴

【授業の目的・ねらい】

老年期に特有な看護技術を身につけ日常生活の適応に向けての援助を習得する。

【授業計画】

回数	講義内容
第1回	老年看護学 第4章 高齢者のヘルスアセスメント
第2回	第4章 高齢者のヘルスアセスメント
第3回	第4章 高齢者のヘルスアセスメント
第4回	第5章 高齢者の生活機能を整える看護
第5回	第5章 高齢者の生活機能を整える看護
第6回	第5章 高齢者の生活機能を整える看護
第7回	第5章 高齢者の生活機能を整える看護
第8回	第5章 高齢者の生活機能を整える看護
第9回	第6章 健康逸脱からの回復を促す看護
第10回	第6章 健康逸脱からの回復を促す看護
第11回	第6章 健康逸脱からの回復を促す看護
第12回	第6章 健康逸脱からの回復を促す看護
第13回	第6章 健康逸脱からの回復を促す看護
第14回	老年看護 病態・疾患論 第3章 高齢者の健康状態の把握と総合機能評価
第15回	老年看護 病態・疾患論 第3章 高齢者の健康状態の把握と総合機能評価

【使用テキスト】

系統看護学講座	専門分野	老年看護学	医学書院
系統看護学講座	専門分野	老年看護病態・疾患論	医学書院

【評価方法】

終講試験

科目名	年次	単位（時間）	区分	講師名
老年看護学援助論Ⅱ	2	1（30）	専門分野Ⅱ	江川 陽子

【授業の目的・ねらい】

老化と疾病・障害の程度に応じた看護を実践する方法を身につける。

【授業計画】

回数	講義内容
第1回	第4章 高齢者の疾患の特徴 認知症
第2回	精神・神経疾患
第3回	循環器系の疾患
第4回	呼吸器系の疾患
第5回	消化器系の疾患
第6回	内分泌・代謝系の疾患、自己免疫疾患、血液の疾患
第7回	腎・泌尿器系の疾患
第8回	運動器の疾患・皮膚の疾患
第9回	感覚器、歯・口腔の疾患 感染症
第10回	安心して療養を受けられるための看護 (高齢者と薬 高齢者のリスクマネジメント)
第11回	住み慣れた地域で過ごすための看護 (高齢者のリハビリテーション 社会資源)
第12回	意思決定支援・人生最終段階の看護 (エンドオブライフケア・看取り)
第13回	総括
第14回	看護過程の展開
第15回	

【使用テキスト】

系統看護学講座	専門分野	老年看護学	医学書院
系統看護学講座	専門分野	老年看護病態・疾患論	医学書院

【評価方法】

終講試験

科目名	年次	単位（時間）	区分	講師名
母性看護学方法論	2	1（30）	専門分野Ⅱ	村上 文洋

【授業の目的・ねらい】

妊娠・分娩・産褥時の母子の生理的な変化について理解し、正常経過の観察、全経過を通じての包括的看護について理解する。また、女性生殖器系の疾患に関して病態・検査・治療予後を理解する。

【授業計画】

回数	講義内容
第1回	女性生殖器 受精と胎児の発生
第2回	症状とその病態生理、診察・検査
第3回	疾患の理解
第4回	疾患の理解
第5回	不妊症
第6回	内分泌の異常
第7回	性分化と性器形態の異常
第8回	性器の炎症、性感染症
第9回	ファミリープランニング
第10回	女性のライフサイクル
第11回	類腫瘍病変、前癌病変、腫瘍
第12回	正常妊娠
第13回	異常妊娠
第14回	避妊
第15回	予備

【使用テキスト】

系統看護学講座	専門基礎分野	人体の構造と機能【1】解剖生理学	医学書院
系統看護学講座	専門分野	成人看護学【9】女性生殖器	
系統看護学講座	専門分野	母性看護学【1】母性看護学概論	医学書院
系統看護学講座	専門分野	母性看護学【2】母性看護学各論	医学書院

【評価方法】

終講試験

科目名	年次	単位（時間）	区分	講師名
母性看護学援助論	2	1（30）	専門分野Ⅱ	本多 文

【授業の目的・ねらい】

母性における健康障害・健康問題について看護の方法を理論的に学び、女性をふまえた看護過程を展開し、総合的な看護の視点を養う。

【授業計画】

回数	講義内容
第1回	子どもを産み育てるといふこと 不妊の看護
第2回	妊婦と胎児のアセスメント
第3回	妊婦と家族の看護
第4回	分娩期における看護
第5回	分娩期の看護の実際
第6回	新生児期における看護
第7回	産褥期における看護
第8回	異常のある産婦の看護
第9回	新生児の異常と看護
第10回	異常のある褥婦の看護、メンタルヘルスの問題を抱える母親の支援
第11回	沐浴演習、授乳の支援 演習
第12回	
第13回	事例による看護過程の展開
第14回	
第15回	まとめ

【使用テキスト】

系統看護学講座	専門分野	母性看護学【1】	母性看護学概論	医学書院
系統看護学講座	専門分野	母性看護学【2】	母性看護学各論	医学書院

【評価方法】

終講試験

科目名	年次	単位（時間）	区分	講師名
精神看護学方法論	2	I（30）	専門分野Ⅱ	辻 克郎 富松 健太郎 辻丸 智子 江口 寛

【授業の目的・ねらい】

精神障害者の発症の特徴と主な疾患の原因・診断・治療について理解し、看護に活かすことができる。

【授業計画】

回数	講義内容	講師
第1回	精神症状論と状態像 さまざまな精神症状	辻
第2回	精神障害の診断と分類 統合失調症	辻
第3回	幻聴体験 VR 講義	富松
第4回	気分感情障害	辻
第5回	神経症性障害 ストレス関連障害および身体表現性障害	辻
第6回	精神作用物質使用による精神および行動の障害 発達障害	辻
第7回	認知症	辻
第8回	精神科における治療 精神療法 薬物療法	辻
第9回	精神科での治療	江口
第10回	精神保健福祉法ができるまでの歴史 精神保健福祉法（入院形態） その他の制度	辻丸
第11回	てんかん 人間の心の働きとパーソナリティ障害	富松
第12回	精神科での治療	富松
第13回	関係の中の人間	富松
第14回	精神科で出会う	富松
第15回		富松

【使用テキスト】

系統看護学講座 専門分野 精神看護学【1】 精神看護の基礎 医学書院  
 系統看護学講座 専門分野 精神看護学【2】 精神看護の展開 医学書院

【評価方法】

終講試験

科目名	年次	単位（時間）	区分	講師名
精神看護学援助論	2	1（30）	専門分野Ⅱ	永松 祐二 野母 武

【授業の目的・ねらい】

患者と看護者関係の成立・発達・発展させるための方法を理解し、精神に障害をもつ患者の看護過を展開し、総合的な看護の視点を養う。

【授業計画】

回数	講義内容	講師
第1回	第8章 ケアの人間関係 ケアの前提を知り、ケアの原則・方法について学習する。	永松
第2回	第8章 ケアの人間関係 対人関係の基本的な考えを理解し、患者—看護師関係における感情体験について学習する。	永松
第3回	第9章 回復を支援する 回復の意味、リハビリを促す環境・方法としてのグループ、回復のためのプログラムについて学習する。	永松
第4回	第10章 地域におけるケアと支援 地域における生活支援の方法について学習する。	永松
第5回	第10章 地域におけるケアと支援 地域におけるケアの方法と実際、学校・職場におけるメンタルヘルスと精神看護	永松
第6回	第11章 入院治療の意味 精神科を受診すること、入院中の観察とアセスメント、退院に向けての支援について学習する。	永松
第7回	第12章 身体をケアする 精神科における身体のケア、看護ケアの実際について学習する。	永松
第8回	第12章 身体をケアする 精神科の治療に伴う身体のケア、身体合併症のアセスメント、終末期のケアについて学習する。	永松
第9回	第13章 安全をまもる リスクマネジメントの考え方と方法を理解し、緊急事態（自殺・暴力・無断離院）の対策について学習する。	永松
第10回	第14章 医療の場におけるメンタルヘルスと看護 リエゾン精神看護とその役割、活動の実際について学習する。	永松
第11回	急性期にある統合失調症患者の看護展開	野母
第12回	精神看護学実習の心構え、看護計画のための情報整理 統合失調症患者の看護（慢性期）	野母
第13回	統合失調症患者の看護（慢性期） 看護計画の実際	野母

第 14 回	プロセスレコードとは	野母
第 15 回	プロセスレコードとは	野母

**【使用テキスト】**

系統看護学講座	専門分野	精神看護学【1】	精神看護の基礎	医学書院
系統看護学講座	専門分野	精神看護学【2】	精神看護の展開	医学書院

**【評価方法】**

終講試験

## 2023 年度授業計画（シラバス）

教育内容	地域・在宅看護論	対象学年	2年	授業時間数	30時間（15回）
科目名	在宅看護概論	学期	前期	授業単位数	1単位
担当教員	岩屋 弓子	実務経験と その関連資格	看護師として病院勤務		
≪科目全体のねらい・到達目標≫ 在宅看護に関する保健医療福祉制度を理解し、在宅看護展開に必要な療養者・家族支援に関する理論や法制度 関係職種との連携について学ぶ。					
≪事前学習内容≫ 学生の身近にある人々の暮らしから看護の学びをはじめめる・暮らしの基盤としての地域を理解する。					
≪DPとの関連≫ DP. 1 看護師としての責務を自覚し、人々の生命・尊厳・権利を尊重した論理的な判断に基づいた看護を実践することができる。 DP. 2 地域に暮らす対象を身体的・精神的・社会的に統合された存在として幅広く理解するコミュニケーション能力を培う。 DP. 4 健康段階を理解し健康状態やその変化を臨床判断し、科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。					
授業の方法	内容				方法
第1回	在宅看護の基礎（1） 在宅看護の役割 在宅看護が必要とされる背景				講義
第2回	在宅看護の基礎（2） 在宅看護の理念と目的 在宅看護の特徴 在宅看護論を学ぶ目的				講義
第3回	在宅看護の基礎（3） 在宅看護の倫理と基本理念 ノーマライゼーション ヘルスプロモーション 権利擁護（アドボカシー）				講義
第4回	在宅看護の基礎（4） 在宅看護の対象と必要援助（在宅看護の対象となる個人） 健康段階からみた対象				講義
第5回	保健医療福祉対策と在宅看護 高齢者保健福祉対策 在宅ケア体制と看護活動				講義
第6回	発達段階からみた対象 家族と在宅看護（ケアの単位としての家族）、コミュニティーケア				講義
第7回	家族と在宅看護（ケアの単位としての家族） コミュニティーケア・DVD「ささえあうたしかな手」				講義
第8回	在宅看護に必要な社会資源 在宅看護を支える保健・医療・福祉 ケアマネジメント チームアプローチ				講義
第9回	訪問看護の役割と機能 訪問看護のシステム 生活の場における看護				講義
第10回	自立を支援する看護 住まい方と健康				講義
第11回	訪問看護の実際 生活を支えるチームの一員としての役割				講義
第12回	在宅看護の展開 患者と家族に対する援助の過程				講義
第13回	在宅看護の利点と限界				講義
第14回	在宅看護における看護師の倫理				講義
第15回	在宅看護の変遷と今後の課題				講義
≪成績評価の方法と基準≫ 試験、授業出席日数、レポート、グループワーク課題					
≪受講上の注意≫ 一人ひとりが学習目標を達成できるようになってください。 努力して「理解できる」ようになりましょう。					
≪使用教材（教科書）及び参考図書≫ 系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 医学書院					



科目名	年次	単位（時間）	区分	講師名
在宅看護援助論 I	2	1（30）	統合分野	田中 千香

【授業の目的・ねらい】

社会資源を活用し、在宅看護での展開と医療・福祉との連携やケアマネジメントについて習得する

【授業計画】

回数	講義内容
第1回	訪問看護ステーションの紹介 地域との連携 事例紹介
第2回	訪問看護に関わる法令（介護保険・健康保険）
第3回	災害時における在宅看護（豪雨、台風、地震、津波に備える）
第4回	在宅におけるリスクマネジメント
第5回	事例を通じて連携について学ぶ
第6回	訪問看護ステーションを作ろう。運営基準・基本理念グループ
第7回	
第8回	訪問看護ステーションを作ろう。発表
第9回	認知症、がん、ターミナル、人工呼吸器、小児 各事例の看護研究
第10回	
第11回	認知症、がん、ターミナル、人工呼吸器、小児 各事例の看護研究 発表
第12回	DVD 学習
第13回	事例のコミュニケーションについて考える すべてを見られる在宅看護「緊張って伝わる」空気を読む笑顔の意味
第14回	
第15回	総まとめ

【使用テキスト】

系統看護学講座 統合分野 在宅看護論

医学書院

地域・在宅看護論〔1〕 地域・在宅看護の基盤

地域・在宅看護論〔2〕 地域・在宅看護の実践

【評価方法】

終講試験

科目名	年次	単位（時間）	区分	講師名
在宅看護援助論Ⅱ	2	1（30）	統合分野	西原 昌代 吉岡 幸愛

【授業の目的・ねらい】

在宅看護に必要な技術を身につけ、患者・家族の抱える健康上の問題を解決するための援助方法を身につける。

【授業計画】

回数	講義内容
第1回	・在宅で求められる看護技術（呼吸管理・食生活・嚥下・排泄）
第2回	・在宅で求められる看護技術 （移動・移乗・清潔・認知機能・コミュニケーション）
第3回	・在宅における医療管理を要する人の看護 （褥瘡・尿道留置カテーテル・ストーマ）
第4回	・在宅における医療管理を要する人の看護 （経管栄養・在宅中心静脈栄養法・疼痛緩和）
第5回	・在宅における医療管理を要する人の看護 （NPPV・HOT・HMVと排痰法）
第6回	・在宅看護の実際（退院前、療養移行期、安定期、急性増悪期、終末期）
第7回	・在宅で求められる看護技術（エンドオブライフケア）
第8回	演習 移動の介助
第9回	関節可動域訓練
第10回	演習 入浴介助
第11回	移動介助
第12回	演習 清潔の介助
第13回	
第14回	グループワーク 事例検討 振り返り
第15回	まとめ

【使用テキスト】

系統看護学講座 統合分野 在宅看護論  
 地域・在宅看護論〔1〕 地域・在宅看護の基盤  
 地域・在宅看護論〔2〕 地域・在宅看護の実践

医学書院

【評価方法】

終講試験

科目名	年次	期間	単位（時間）	区分	講師名
災害看護と国際看護学	2	4～9	1（30）	統合分野	村上 潤一郎 徳永 すま子

【授業の目的・ねらい】

災害が社会の変化や地域の人々の暮らしと密接に関係しながら、人々の生命や生活に影響を及ぼすことを理解する。災害時に看護が果たす役割、災害サイクルにおける看護支援活動を理解する。

【授業計画】

回数	講義内容	講師
第1回	看護とグローバル化社会、文化と異文化理解	徳永
第2回	貧困と貧困問題、日本のODA	徳永
第3回	実際の看護活動の事例、試験問題	徳永
第4回	自己紹介 災害への意識調査、質疑応答 CSCATTTの説明	村上
第5回	災害医療、災害看護の基礎知識 災害現場に関するグループワーク① 災害現場で遭遇する疾患など	村上
第6回		
第7回	災害現場に対するグループワーク② 災害現場で遭遇する疾患への対応など	村上
第8回		
第9回	トリアージの説明 トリアージの訓練、試験 トランシーバー体験など	村上
第10回		
第11回	災害における重症疾患のグループワーク③ DMAT 隊員の活動紹介 国家試験対策など	村上
第12回		
第13回	災害看護の展開（多数傷病者対応訓練）	村上
第14回		
第15回	大牟田市防災訓練 参加	

【使用テキスト】

系統看護学講座 統合分野 災害看護学・国際看護学

医学書院

【評価方法】

終講試験

護学講座 統合分野 在宅看護論 医学書院

科目名	年次	単位（時間）	区分	講師名
臨床補助技術における安全	2	1（30）	統合分野	山川 光子 岩屋 弓子

【授業の目的・ねらい】

医療システムの中の危険要因を知り、診療補助技術における事故防止のための知識・技術を習得できる。ハイリスク環境下で、安全な看護を提供するための判断力・実践力を高めることができる。実践に即した技術演習を通して、専門職としての責任感と倫理感を身につけられる。

【授業計画】

回数	講義内容
第1回	序章 医療安全を学ぶことのたいせつさ
第2回	第1章 事故防止の考え方を学ぶ A 医療事故と看護業務 B 看護事故の構造
第3回	第1章 C 看護事故防止 事例
第4回	ヒューマンエラーと事故防止の取り組み、 医療事故を起こしてしまったら
第5回	臨床で起りうる医療事故の事例
第6回	実習で安全な看護を提供するために (転倒・転落予防、誤嚥予防)
第7回	看護師に必要となる感染対策の基本的な知識と技術
第8回	知らなければならない知識“医師の指示受け”
第9回	知らなければならない知識“薬剤注射”
第10回	知らなければならない知識“内服薬” “インスリン”
第11回	知らなければならない知識“カリウム製剤” “輸血”
第12回	KYT（危険予知トレーニング）
第13回	KYT（危険予知トレーニング）
第14回	臨地実習に向けての医療事故防止、
第15回	臨地実習に向けての医療事故防止、講義のまとめ

【使用テキスト】

系統看護学講座 統合分野 医療安全

医学書院

【評価方法】

授業の参加度、課題提出、グループワークの参加度、記述による学科試験により本授業の評価を行う。

科目名	年次	単位（時間）	区分	講師名
看護管理と研究	3	1（30）	統合分野	雪野美和 大町福美

【授業の目的・ねらい】

看護管理についての基礎知識を習得し、組織の中での看護師の役割を理解できる。  
チーム医療や他職種との協働において看護師としてリーダーシップ、メンバーシップが理解できる。  
看護研究の意義と方法を理解し、実践した看護の振り返りができる。

【授業計画】

回数	講義内容
第1回	看護とマネジメント
第2回	看護とマネジメント
第3回	看護ケアのマネジメント
第4回	看護サービスのマネジメント
第5回	キャリアマネジメント・諸制度について
第6回	看護研究で学ぶこと 研究って何？ ケーススタディって何？ 看護過程と看護実践 看護理論の紹介
第7回	ケーススタディを完成させるために 事例と理論の効果的な使い方 企画書の作成の仕方と実際 レイアウトの説明 効果的な情報収集 文章のまとめ方
第8回	文章のまとめ方 研究時に使う文献の重要性、文献検索について、研究の倫理
第9回	ケーススタディ本文・抄録・資料作成 発表準備・パワーポイント作成について
第10回	ケーススタディ本文・抄録・資料作成 発表準備・パワーポイント作成について
第11回	ケーススタディ本文・抄録・資料作成 発表準備・パワーポイントによる資料作成
第12回	ケーススタディ本文・抄録・資料作成 発表準備・パワーポイントによる資料作成
第13回	ケーススタディ本文・抄録・資料作成 発表準備・パワーポイントによる資料作成
第14回	ケーススタディ本文・抄録・資料作成 発表準備・パワーポイントによる資料作成
第15回	研究について総まとめ、学会参加

**【使用テキスト】**

系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践Ⅰ 看護管理 (医学書院)

**【評価方法】**

看護管理：学科試験、看護研究：学科試験、ケーススタディ作成、発表で評価

科目名	年次	単位（時間）	区分	講師名
臨床看護の実践	3	1（30）	統合分野	岩屋 弓子 前田 優子

【授業の目的・ねらい】

臨床に近い状況下で複数の患者への看護を通して、総合的な判断力や対応をする力を養う・看護技術を組み合わせて、複数患者の状態や状況にあった援助が実施できる

【授業計画】

回数	講義内容
第1回	イントロダクション 検査から考える解剖生理学（腎臓の機能と働き）
第2回	演習のねらい、目的 演習の進め方 「院内感染対策ゾーニング」シミュレーション
第3回	病態から考える身体のメカニズムと看護（肝硬変）
第4回	病態から考える身体のメカニズムと看護（肝硬変）
第5回	病態から考える身体のメカニズム（循環器系）
第6回	2人の患者の情報を整理し、必要な援助を抽出 2人の患者のケア計画立案し、指定の記録用紙に記入し提出
第7回	援助の優先順位を判断し、行動計画が立案 2人の患者のケア計画立案、指定の記録用紙に記入し提出
第8回	演習 計画に基づき、二人の患者への援助を計画的に実施 1) 安全・安楽の確保 2) 自立度にあわせた援助の実施 3) 援助の効率性
第9回	演習 看護技術を組み合わせ、時間経過の中で適切に実施 1) チームメンバーとの連携 2) 割り込み状況への対処予期しない患者の反応
第10回	4人受け持ち患者の情報整理し、必要な援助を抽出 4人の患者のケア計画立案、指定の用紙に記入し提出
第11回	演習 看護技術を組み合わせ、時間経過の中で適切に実施 1) チームメンバーとの連携 2) 割り込み状況への対処
第12回	演習 看護技術を組み合わせ、時間経過の中で適切に実施できる。 1) チームメンバーとの連携 2) 割り込み状況への対処
第13回	演習の振り返り・まとめ
第14回	組織の中で協働する力を養う「ブラインドワーク」
第15回	看護リフレクション 看護実践から学びを拓く

【評価方法】

レポート・課題評価 グループワーク参加 授業出席日数

【備考】

看護師の倫理綱領